

小堀(商) × 齊木
 村川(中) — 光本
 浅野(商) — 本目
 ○竹林(中) — 村方
 須田(商) — 堀上
 ○堀(工) — 大島
 藤村(中) × 中村

紅白試合

先鋒 吉川(工) — 安藤
 ○藤本(商) — 同
 同 — 江田
 ○山口(中) — 同
 同 — 田中
 谷澤(工) — 同
 近藤(中) — 同
 西田(商) — 同
 村川(中) — 同
 小堀(商) × 同

浅野(商) × 中居
 ○竹林(中) — 中島
 ○同 — 齊木
 同 — 森本
 須田(商) × 同
 ○堀(工) — 光本
 同 × 木目
 大將 ○藤村(中) — 村方
 ○同 — 藏多
 同 × 堀上
 中 村

昭和五年六月十五日武
 德會滋賀縣支部主催有
 段者會開會式試合參加
 の記

三選士藤村、竹林、大照は此の式に列す。
 此の日武道の恩師嘉納治五郎先生の武道に關する御講演あり。而して範士磯貝先生の嚴肅な審判の下に試合は開かれたり。
 三人共にコンアシヨシ、竹林氏は最

の強敵と組むや得意の小内刈にて業も美しく倒し、續いて来る敵二人も内股、大外刈にて投げ、見る者をして驚嘆せしむ。而して四番目の敵は常に腰を引き防禦に努めたれば已むなく引分となれり、然れども竹林氏の成績は此の試合の最上のもなりき。藤村は滋賀師範の初段一人を右大外刈にて裏を取り次の初段と引分せり。此の試合の吾々の奮闘せし結果斯の如き良成績を残し本校の武名を湖南に轟かせり。

第三十一回日本青年演
 武大會出場の記

七月二十七日、空晴れ数羽の鳩舞ひ吾等の首途を祝せり。諸先生を始め彦中劍道部、一般諸兄の御親切なる應援の下に驛頭に見送られ京地に出發せし我が部員は、悲壯の決心を以て此の試合に遠征し、彦中の赤鬼魂を發揮し必勝せんと期せり。

二十八日個人試合成績

東ノ方組合セ
 三〇八回 岡山一校 ○藤村正三
 四〇六回 熊本鎮西中 ○清田武敏
 西ノ方組合セ
 五五回 京都一校 ×(大西信三)
 六〇回 和歌山中校 ○小磯隆末
 一四〇回 三重松坂商校 ○柴田正己
 二二七回 本愛知明倫中校 ○近藤三國藏
 二三〇回 岡山一校 ×(村見文夫)
 三六七回 岡山一校 ○(板谷武一)

二十九日団体試合の成績

本校 茨木中學
 先鋒 大照 敏 × 梅 永晴
 次鋒 村川 文男 大内河 長谷川 賢
 中堅 山口 隆爾 田原 吉岡 三郎
 副將 竹林 紀夫 × 柴部 美元(初段)
 大將 藤村 正三 × 吉岡 吉雄

悲しい哉。吾等敗れたり。奇襲に奇襲を用ひ、虚に乘じて攻撃し、敵に巨弾を浴びせらるれば忽然として逃る。其速神も此れ疑ふ。敵に強襲を行へば敵もさるもの、變化倏忽體を交して此れを避く。避けながらにして吾を衝く。吾此れを避く。而して吾等死守死攻す然るに天、吾を見捨てたるにや、吾敗れたり創殘の將慷慨、其の憂何に例へん。悲憤天に充ち地を塞ぐもの誰か此れを知る。吾等情沈施々として京路を去る。

土用稽古の記

戦敗れて將其憂を知る。漫々恬然として過すべきにあらず。酷熱天を焼き地を焦し、草木獨り蒼々。意氣慨然として悲憤の涙流れ体強悍にして不屈なり。故に業駭々乎として日に進み目指す覇權も掌握するを得ん。其の間体膚に擦れ悲痛を知ること幾度ぞ。流汗淋漓此れ止まず。眞に血と涙と汗の練習なり。葉月も終りになりぬれば止めたり。吾等第二

戦線は來れり。

昭和五年九月二十四日
 彦根高等商業學校主催
 第七回近府縣柔道大會
 の記

空明らかに秋晴れ試合には好日和なりき。吾等早く高商道場に馳せ参す。到れば即ち全國の剛者平安中學を始め二十有九校相集る。何れも元氣溢れ勝たずば歸らじ。口に出でずとも顔に表せり。十時試合開かれたり。
 第一回戦

本校 京都紫野中學
 先鋒 村川 文男 × 松坂信太郎
 次鋒 ○山口 隆爾 内股 大西 一勝
 同 × 山田 宣秀
 中堅 大照 敏 — 渡邊清太郎(二)
 副將 竹林 紀夫 大内河 同
 ○大將 ○藤村正三 左内股 同
 ○同 左内股 三輪 弘

第二回戦

本校

滋賀師範

先鋒○村川 文男 左臂負傷 出口久左衛門 (初段)

同 片手学校 平尾 知一○

次鋒○山口 隆爾 大外刈 同

同 川畑安夫○ (初段)

中堅 大照 敏内 内股ノ裏 同 ○

副將○竹林 紀夫 野真杖 同

同 旗腰 横山 節○ (二段)

大將 藤村 正三 旗腰 同 ○

同 三谷多次右衛門

吾等は京都の强者紫野中學を倒せしも縣下の覇者師範には如何ともし難く涙をのんで敗北せり。

昭和五年九月二十八日

縣教育會主催第十五回

縣下中等學校柔道大會

出場の記

吾等は此の大會に縣下の覇たる年來の望を

激動するのは吾等青年の熱し易い昂奮であるに過ぎない。極端に言へば心の底から叫び出づるものでなく、選手を鼓舞する外面的熱腸で、心なきものは其れに乗るだけだ。眞に心の底から激動する者あらば吾が部は更によく榮ゆる筈だ。——試合に出づる者が互に意氣を鼓舞せられたいが、熱心な鼓舞者となつて欲しい——。現在は假裝舞踏だ。此の舞踏は續かない。先が現はれて居る。其の假裝を取れば空虚だ。選手たる所以を知らざるものだ。其の所以は生徒に代り吾が校を負ひ、本校の特色を發揮する爲の義務と選手間に存する責任である。吾が部は他校に比してこれが薄らいで居らぬか。さあならば吾が部は必然滅亡する。滅亡せざる所は吾が部に未だこれが存するからである。將に消失せんとする此の觀念を更に濃く自分の脳裡に滲み込ませ、一時の間もこれを忘れないで他校の首席となるやうに努力して貰ひたい。終りに際して柔道部卒業生に代り、全校生徒諸君の熱烈なる柔道

果さんと思ひしに敦賀に營兵生活に行きたれば身体に頓挫を來し、且選手風邪に冒されコンテション悪し。然れども吾等は本校の名譽のために悪戦苦闘せり。

第一次戦

第一回戦

本校

虎姫中學

先鋒 大照 × 杉 中

次鋒 村川 × 陵 木○

中堅 山口 × 田○

副將 竹村 × 林

大將 藤村 × 森

先鋒 本校 八日市中學

大照 × 森井忠次○

村川 × 川 添

山口 × 森井忠五

竹林 × 澤

○竹 林 内股 小澤 (二段) ○

大將 藤村 遠足組

先鋒 本校 × 鷹 羽

部御後援を感謝する次第であります。

—(藤村記)—

柔道部後記

多大なる期待と意氣とを持つて進んで來た吾等の跡も今は思ひ出さなかつた。この思ひ出深い、もう一度頑張つて見たい。柔道部を去るのは悲しい。だが吾等の後を引受けて呉れる心強い勇士のあることを確信し之から柔道部を背負つて立たれる人の奮闘を祈り乍ら振興を待ち乍ら深く笑つて別れよう。選手に乏しい吾が部の爲に更に諸兄の御盡力を望む。(昭 四、十二、五柔道部卒業生)

劍道部々報

昭和五年度の我が劍道部遠征は七月二十五日京都武徳殿に於て開かれたる第三十一回青年演武大會により第一回の幕は切つて落されたり。

村川 × 井 上
山口 × 中 西
○竹 林 内股 川 崎
大將 藤村 × 森 野

柔道部諸氏に告ぐ。吾が部は傳道的に永久的に覇たらざるものにあらず。吾が部は覇たる道程にある。換言すれば吾が部は必ずしも永眠でない。假眠だ誰しも必ず遭遇する假眠だ。吾が部は假眠時代にあるに過ぎない。假眠は断片的に凡ての校を襲ふものだ。吾等は襲はれて居る——。長く永久的とも思はる、程長く——假眠過ぐれば黄金時代に達する一步である。其れに目覺むるには、自己の如何なる立場に存するかと、外物から受くる衝動さに目醒むるを要する。其の中でも衝動は屢々感ずるが、春の淡雪の如く消滅して了ふ。これは各自の義務と責任を完全に果す精神が無いからだ。此所に一人の選手が居るさ想像せよ。彼が此の試合にこそ彼等が義務を果し責任を盡すべく、自己及び他人を元氣付け、

願れば我が劍道部選手は伊吹風膚を劈く候俄然三尺の竹刀を取持ちて校内北隅に龍拳虎擲の聲を發したり。

驕然たる掛聲は何を暗示せるにや?捲土重來昨年の遺恨を西京の地に雪がんと心に定めし選士の掛聲なり。

三尺の竹刀、身に合ひし革甲の憂々として相撃ち其の騒音は寒暖計の上昇と共に烈しくなり愈々七月も終らんとするに至れり。

選士が銳氣勃々として眉宇に必勝の氣漲り意氣天を衝く。自重物に動ぜず龍の玉に向ひて進むが如く面に向ひて進む先鋒川那邊!

堅忍不拔勝たずば一步たりとも退かず彼獨特の劍を操つる次將上田!

迅速猛烈青年の燃ゆるが如き血に満ち敵を引き寄せ彼を切る中堅山本!

元氣激濁とし倏忽に變化し獅子の野に走るが如く飛廻る副將川村!是等の選士何處に欠くる所あらん?

大會の前日午後二時始めて征途に選士は躍

る胸を抑へつゝ熱誠なる諸先生の聲援を感謝しつゝ彦根を西一京都に向へり。

翌二十五日！曙光は暑く故郷の空より照り付け加茂の流緩かに微風だになく加茂の流れより清く磨きし我等が腕を赤鬼が魂を發揮せん。

龍虎相撃つ當日の戦蹟や如何。左に其の概略を記せん。

- 1 (本) 大阪高津中 水野信一
- 2 (本) 兵庫瀧川中 山本源一
- 3 (本) 鳥取農學 小川三郎
- 4 (本) 大阪泉尾工 岡武三
- 5 (本) 富山高岡商 宮内正三
- 6 (本) 高知農校 野田啓文
- 7 (本) 兵庫尼崎中 川那邊一誠
- 8 (本) 岡山津山中 筒井康彦

(1) 敵は彼校の中堅なりされど水野善く闘ひ

川村怒髮天を衝き一嘯し猛り狂ひ獅子の猛然として敵に對する如く敵を一撃のもとに切る。

我起ちて敵を凝視するに毫の隙を胸に置かず。

我が心苛立ちて胸を狙ふこと幾度かされど効を奏せず延面をゆづる。

血湧き此所を先途と劍先を下げて再度胸を狙ふに彼が切尖矢の如く面に向ふ延面なり折敷け胸を打てども……毫釐の差噫！我が事終りぬ如何にせん成運既に盡きたり。

肢体傷つき血淋漓として汗と共に流れあらゆる辛苦を嘗めしも……。

抑へんとすれども涙出で起てざらんすれども聲出づ。

勝敗は時の運なりとは言ひながら無念遺憾の極なり。

今や我等の運命を決するのは唯縣下大會なりと固き決心の色を浮べつゝ恥を忍び俛首して校友諸兄の御宥怒を乞ふのみ。

胸を二本取りしも初陣の爲か腕定まらず揚籠手にて涙……。

(4) 彼は煙の部の豪 一禮して立向ふや我攻勢に出で我を濼々たる煙の中に引き入れ十數合の後面を取らる。

新らしき戦蹟を顧れば入戦士の内僅二十倒れたるのみ選士の顔面血漲り眼光爛々として氣既に明日の戦を呑むが如し。

二十七日！噫！吾等が奮闘の日！夢だに忘るゝ能はざりし決戦の日は來れり。

金龜が城下に膽を鍛へし健兒の腕は一擧に戦を破らんさ會場に向へり。

見よ！幾千の若き劍客萬場の快漢我が敵何處に在りと睥睨す。

故郷には我等に期待せる六百の健兒あり、「頑張つて來てくれ」と呼びし彼等の言葉今尙我が耳に残れり。

一振の劍、一步の前進、此れ皆六百の一振一步たり、六百が健兒の一劍たり。

雨の日、風の日、隠忍慘苦、恥を忍び、涙

縣下武道大會出演の記

武徳會の大會に惜しくも敗れたる我等は炎熱焼くが如き暑中休暇、靜座せるに流汗淋漓たるも先を顧みて赤鬼健兒の能く安息を容るゝ所ならんや、眼前に迫る縣下大會の月桂冠の獲得に奮起し九月一日には既に戦備殆ど整はんとす。四月以來の猛練習に土用稽古の猛烈さを加へたる我が腕は武徳大會當時に比するにその實力や實に強大となりぬ。斯くて待ちに待ちたる大會も愈々來れり。九月二十八日我が地の彦根工業に於て激烈なる争鬪戦は開催せらる。四回の戦伐中三回まで我と共に湖國の覇を争ふ強豪ならんとは！

嗚呼心地よや敵來れ、嗚呼心地よく戦はん戦の庭の花吹雪、散らさで敵を歸すべき

一次戦
本校 比叡山中學
先鋒 川那邊○ 中島
上田 ○小泉

を包んで日夜復讐戦に肝膽を嘗めし事半歳。今や山陽の驕兒何者ぞ！

寶刀彼が頭に加へんか。時到的戦はん哉時

到る。

岡山第二中 本校
先鋒 小山 一二 ○川那邊一誠
鈴木 鐵也○ 上田 啓三

岡義 太郎 × 山本源一
三島博太郎 ○川村 三郎

大將 黒住 秀雄○ 筒井 康彦

川那邊悠揚迫らず瞭然として長嘯すれば敵此れに應酬す。俄然猛烈なる肉薄戦を演じ一進一退此の一戦こそ我機先を制すか彼にゆづるか兩士互に彼我の士氣を鼓舞せんものと轟り黒龍白虎死を決して闘ふ。敵を東隅に壓して籠手を切り凱歌まづ我が軍に揚る。

續く上田彼獨特の操劍にて敵を惱ませしも涙をのむ。

小壯の闘士山本起ちて大兵に向ふ我が軍得點再度と思ひしに力を合すこゝ數合ならざるに引分となる。

山本○ 小出
川村○ 安部

大將 筒井 ○金福

二次戦
彦根工業 本校
先鋒 杉本○ 川那邊

成宮○ 宮下
若林○ 山本

大將 吉川 ○川村
伊部○ 筒井

三次戦
本校 伊香農學
先鋒 川那邊○ 小森

宮下 ○宮本
山本 ○船橋

大將 川村 ○朝見
筒井 ○平川

四次戦
本校 師範
先鋒 川那邊○ 竹本

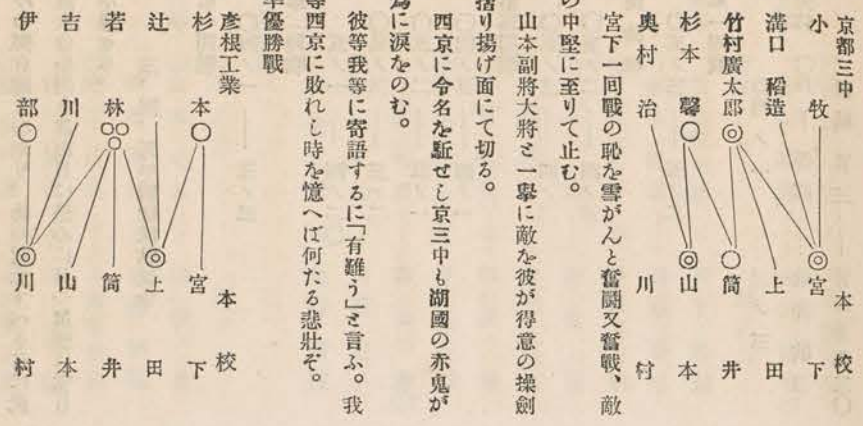


彦根高等商業學校主催
近府縣中等學校劍道大會の記

門川宙を飛び駆来り「二回戦は花園だ！」と告げたり。

此の時早くも選士の軒昂たる意氣其の眼光に表はる。恥を忍び毫差を以て哀れ山陽の敵に斃れ且同郷の友に怨をのみ天運我に向はず涙を抑へし事二度、捲土重來此の遺恨を雪げよと殘されたるは本大會のみ五選士待ちに待ちたる争覇戦なり。

見渡せば意氣衝天、威風凜々たる我が敵は大将を先鋒となし、同州の栗田農學を先鋒にて撫で切り、先に伊香農學を中堅にて薙ぎ斃



彼等我等に寄語するに「有難う」と言ふ。我等四京に敗れし時を憶へば何たる悲壯ぞ。準優勝戦

し、勇みに勇み豪氣百倍せるが如し。優秀なる技術と金龜城下に膽を鍛へし赤鬼が雄心こいづれが勝る。總て戦機熟せり。花園中學



我が先鋒宮下勝を制し士氣を鼓舞せんもの敵を押し刀を合すこと數合、試験の前日なれば不眠なる爲か、彼が劍をして進ませしめず彼の四肢をして働かしめず敵が掌中の技、籠手と胴にて涙をのむ。

されど技だけたる我敵は負傷をこつとも力戦奮闘止んぬる哉再び胴と面とを取らる。窓外の古城粉壁に雲低くか、り孤城落日の

此の準優勝戦は彦中六百の健兒の傑出たる名譽を荷ひし決死の五名の劍士が最後の突撃にてありき。縣下の覇を握り益々鍛へに鍛へし氷刀の林立せる彦工軍を死を賭して最後の猛襲をなせし五名の決死隊なり。宮下機先を制し籠手を切りしも技術優りたる杉本の爲に面を取られ伏す。戦勢に乗じて猛襲し面に来るを上田胴を抜きて意氣凄壯。續く辻を面と胴にて胃の緒を解かしめ中堅若林に向ふ。

上田善戦して彼をして瞠若ならしめしも敵が刀の露を散りぬ。劍折れ肢體消ゆとも靈魂を持ちて敵を切らん。筒井起ちしも籠手を切りしに面を取られ倒れぬ。若き闘士山本敢然として猛襲せしも胴を切られて憤死す。大将川村最後の逆襲技老練なる若林を一刀の下に切り倒し、敵副將を刀を合す。彼襲はゞ我退き我が鋭鋒を彼受け肉薄又肉薄龍拳虎

感を深からしむ。敵勝に乗じて一撃に我軍を敗らんと身低げれど堂々たる体軀を持ち、面の紐を靡かせて我に進み来る状何ぞそれ壯なる。技に於て彼優るとも銳氣に於て我優らん。彼我の學舎の名譽を此の一闘に賭して龍虎相撃つ一大活劇を茲に演ぜんとす。

鏢を合し彼我が籠手を切る。我が念頭に閃めきしは頑張つて来いよ！と絶叫せし兄等が叫びなり。血湧き肉躍り飛込みて胴を薙ぎ退いて面を切る。續く風井猛然と攻むるを我が得意の籠手を續け切る。

安部此の瘦男、何者ぞと我が籠手を切るも我進みて胴を切り、籠手を切る。安藤死を賭して胴を切る。我退きて面と胴を切る。麻生彼校の安危此の一戦にと迅速に面に来るを我胴と小手を切りて彼に名を揚げしめす。

第三回戦

擲ちて一勝負彼を膝下に屈伏せしむ。敵將伊部守勢を取り、猛將川村敵を一舉に攻めたるに彼若くして自重や足らざりけん………。嗚呼！我が成運既に盡きたり我が事止みぬ敗軍の將兵を談ぜずとさかや。嗚呼今年度に於けし吾等が戦は終りぬ、夕陽既に天外に落ち視界漸く暗く東空の一方に満月を望む。起ちて築け、天下に覇者たれ、彦中劍道部員諸君！

行幸記念武道大會之記

昭和五年神無月十三日 今上陛下には岡山縣陸軍大演習に行幸させらる、途中此彦根の地を御通過に成らせ、吾々は奉送迎の光榮を貢ひ亦 今上陛下の御父君に有らせらる、先帝陛下には、嘗て此の十三日に當地に行幸せられ大本營を本校に定められ給ひし二つの光榮に浴する吾々はしめく、天子のみめぐ

みの御有難さを知り、此の記念すべき日に武道大會を開き眞面目に熱心に且つ眞堅に當日を過せり。

三、四、五年對級採點試合

第一回戦

○四ノ一——三ノ三

第二回戦

五ノ一——四ノ二〇

○五ノ三——三ツ二

○五ノ二——三ノ一

○四ノ三——四ノ一

第三回戦

○五ノ三——四ノ二

○五ノ二——四ノ三

優勝戦

○五ノ三——五ノ二

第一回戦

○四ノ一——三ノ三

先鋒 ○戸下 善郎——松井 敬三

圓城 喜三——青山喜久三〇

澤田平三郎——北村利一〇

松宮 實——辻村彌太郎

柴田 正三——宮川 修治〇

○西村 修——福田 見嶺

○中島善太郎——錦織 恭三

○赤田 興——吉川 實乘

川脇 秀一——志賀谷重藏

北村 安彌——山口 隆爾

第二回戦

五ノ一——四ノ二〇

先鋒 ○吉田 榮造——岡野 章

伊藤 運——近藤 國藏〇

西田 悞——上田羊治郎〇

青井 宗源——林 正二

中川 清一——古川傳三郎

杉山 圓隆——加藤 默英〇

○水波 淳——塚原 和夫

○川瀬芳太郎——北村 茂男

北村 清——山内 喜一〇

西堀 正式——三輪 隆三

先鋒 ○五ノ三——三ノ二

山本 可人——竹内 禪真

○廣田 萬祐——國島 惠瑞

○北村 正久——柴田 禮二

日比 善吉——里中 力精

○森野 壽——福坂卯之助

村田 寛二——塚田 英夫

○北川 正明——白井 好一

澤田 傳七——布施 一男

○竹林 紀夫——大西 三良

植田 義之——夏川 文二郎

○五ノ二——三ノ一

先鋒 ○藤村 正三——近藤 辰藏

○岡村兵太郎——杉本 典夫

○大照 敏——久木彌惣八

山口章三郎——柴田 正己

○中村 正雄——西村 平次郎

○藤田 泰三——北森 末吉

○橋詰 正太郎——林 茂次郎

○喜久川 仁造——國領友之助

中村 繁——若林繁三郎

大將 黒田 英麿——安田 晋平〇

○四ノ三——四ノ一

先鋒 上池賢次郎——戸下 善郎

○藤本 善雄——圓城 喜三

清水 光一——澤田平三郎

○木下 茂——松宮 實

○高畑 拾一——柴田 正三

○坂野 慎吾——西村 修

○浦部 善三——中島善太郎

三輪 久三——赤田 興〇

○村川 文男——川脇 秀一

大將 堤 登良雄——北村 安彌

準優勝戦

○五ノ三——四ノ二

先鋒 ○山本 可人——岡野 章

廣田 萬祐——近藤 國藏

○北村 正久——上田羊治郎

日比 善吉——林 正二

○森野 壽——古川傳三郎

村田 寛二——加藤 默英〇

○北川 正明——塚原 和夫

○澤田 傳七——北村 茂男

○竹林 紀夫——山内 喜一

○植田 義之——三輪 隆三

○五ノ二——四ノ三

先鋒 ○藤村 正三——上池賢次郎

岡村兵太郎——藤本 善雄

○大照 敏——清水 光一

○山口章三郎——木下 茂

中村 正雄——高畑 拾一〇

藤田 泰三——坂野 慎吾〇

橋詰 正太郎——浦部 善三

○喜久川 仁造——三輪 久三

中村 繁——村川 文男〇

大將 ○黒田 英麿——堤 登良雄

優勝戦

○五ノ三——五ノ二

先鋒 山本 可人——藤村 正三〇

廣田 萬祐——出足岡村兵太郎

○竹村 正司	森 嘉重	富田 信二	同	岡村 貞之助	同
○同	大田 通	築麿 堯	同	小野 豊久	同
○同	植野 甚三	池田 治美	同	前田 多喜男	同
○同	清水 私岳	○森山 清治	同	北村 清嗣	同
同	中辻 政造	同	同	○松本 清	三木 貞太郎
吉田 床一	廣瀬 雅三	堀 睦男	同	同	吉田 銀藏
宮尾 一郎	同	田中 泰三	同	竹村 榮	山中 龍三
渡邊 良夫	有川 堅三	森中 展三	同	夏川 鉄之助	那須 流源
西村 正作	北野 顯龍	村岡 秀夫	同	赤田 龍一	同
小林 毅	同	○深井 料一	同	高居 寛一	寺村 新藏
相馬 次麿	同	同	同	田中 太一郎	西垣 正勝
福川 重太郎	同	○石橋 靖弘	同	上池 芳三	大照 豊
○垣見 章三	田中 卷太郎	同	同	堀江 茂雄	同
同	谷口 信一	同	同	木村 紀	古澤 滋
○井崎 嘉久三	島井 澄	同	同	筒井 賢三	同
同	武田 信	○西川 寛一	同	安部 信之	小川 福太郎
○太田 元夫	福田 隆治	同	同	○森 健三	同
同	高橋 巖三	同	同	同	大森 健三
三谷 圓照	猪口 治男	同	同	○原 重信	西田 一郎
近野 豊一	同	同	同	同	深田 太郎

箕田 肇 同
 ○田中 一雄 同
 同 秋山 米造
 山田 惠一 三上 善光門
 建部 俊一 同
 野村 正一 同
 ○佐野 年久 大谷 宗忠
 ○同 清水 修
 ○同 朽木 徳房
 同 北村 肇
 上田 隆治 田澤 清一
 岡野 貞雄 金子 裕
 同 渡邊 弘
 辻 威雄 岡見 正靖

端艇部々報

北村 辰夫 副將 河合 芳章
 ◎大將橋本 末誠
 部長 佐藤 先生
 理事 上木 先生
 委員 薄木 先生
 委員 五年 西田 悌 森野 壽
 澤田 傳七
 四年 澤田 傳七
 三年 澤田 傳七
 部員
 森野 壽(主將) 五年
 西田 悌 五年
 深尾 九一郎 五年
 澤田 傳七 五年
 澤田 二郎 五年
 北村 安彌 四年

本校創立記念端艇大會の記

澤田 二郎 記

例年の如く本校創立記念校友會端艇部主催
 端艇大會は五月一日金龜城下新港灣に於て舉
 行せらるゝ事となれり。併し此の日雨天にし
 て、祝賀式のみして中止せらる。五月二日。
 此の日や、昨日來の暗雲去りやらず細雨霏々
 たり。
 午前八時頃より春雨漸く收まり、日影さへ
 雲間に表れしかば斷然決行を定まる。大會場
 新港灣に到れば朝靄低く垂れ罩めて灣上に一
 の小波も立たず。巍然と聳ゆる金龜の城は幾
 百年の瞳を開き彦中健兒の活躍今や遲しと待
 頗なり。
 斯くて雨の爲遅延せし準備も漸く整ひ、午

前九時過ぎ號砲一發天空に轟き、大會の暮は切つて落されぬ。

會は進行良く午後の雨天を衝いて續行し午後五時無事終了せり。雨天にもか、はらず大會を遂行せられし役員諸兄に深く感謝す。

滋賀師範奉公園主催 近府縣中等學校端艇競漕大會參加の記

昭和五年度の我端艇部遠征は五月二十五日奉公園主催近府縣中等學校端艇大會に依り第一回の暮は切つて落されぬ。

これより先昨年度の銳澤田、西田、森野、北村に新進の豪深尾、加藤、淺利を加へ今年こそは積年の怨を晴し望を達せんものと三橋先輩の助力を得、種々漕法の研究をなし、伊吹風膚寒き新學年の始めより一葉の扁舟に乗り朝は始業前の三十分間は必ずバック台の練習をなし、夕は東山の月を吐く迄、風雨を冒し

荒れ狂ふ琵琶湖上に怒濤を戦ふ。かくて我等は一に斯界の榮冠をめざして日一日と艇速を増せり。

當日午前八時始めて征途に上る戦士は、躍る胸を抑へながら先輩の御送りを感謝しつ、彦根驛を西へ會場石場に向ひぬ。

此の大會に出漕するは最初の参加にして、且つ淺利、加藤、深尾等の新人経験少なかりしかば、部長以下選手種々作戦計畫に餘念なき内に、早くも汽車は瀨田川を渡り大津驛に着きぬ。會場に來たれば比叡風水面に吹き付くれど、湖上波だにたす、煌々たる太陽雲間より光を投げ絶好のレース日和なり。敵は見えれば、名古屋商業、御影師範、京一商、京一中、八商等早や會場に陣せり。

正午抽籤の結果我等は昨年の優勝校八幡商業と大津商業と第一回戦に於て争ふこととなり。

此の時天なる哉折悪しくも正午前より北東の強風吹き募つて敢然波浪高くコンヤシヨン

舵手 深尾九一郎 整調 澤田 傳七
五番 西田 悞 四番 森野 壽
三番 加藤 默英 二番 北村 安彌
一番 淺利新五郎
マナーシヤ 澤田 二郎

彦根高商端艇競漕大會 出漕の記

昨年斯界の豪奉公園の爲め、彦根港灣に於て行はれたる此の大會に、涙を呑んで退きたるを如何にして忘れんや。且つ又過ぐる奉公園主催の端艇大會に敗れしを。この雪辱を一舉に雪がむきて、猛練習に猛練習を重ね、赤鬼健兒の意氣物凄く此の大會に出漕したり。

六月二十二日一點の曇もなき初夏の絶好コンヤシヨンに見舞はれ我等が意氣はいやが上に募る。我等一同は午前八時學校に集合意氣揚々で會場新港灣に向ひたり。

時に午前十一時半第一回戦に於ける我が敵

頗る悪化したり。

生か死か。此の一戦こそ本大會の優勝戦に價するものなれ。敵は同じ湖上の覇者八商にして積年の怨敵なり、大敵なり。然れ共彼も同じ人間！新春以來辛苦を嘗めて鍛へし此赤鬼健兒の鐵腕いざ示さん。午後一時三艇相並んでスタートに着く、あゝ其の瞬間白煙一發アイを離れて一本一本決勝線に突進す斯界の老練家たる彼は如何なる策戦か最初より猛烈なるヘビーを決行し巨大なる身軀よりして、すばらしき進行を見せぬ。これが爲一艇身先んぢられしと雖も、何を小癪ないぞ見よさミッドルヘビーの聲と共に見事艇首を並べて力漕に力漕し、我一漕せば彼等も一漕激烈なる肉薄戦を演ぜしが、六百に到る頃敵を壓して、ラスト一舉にゴールに入らんさせしが、競漕の古理八高は波浪の高きを利用し大商は地の利を得て急ピッチを以て之に當り、あゝ五十米の頃より頗りに我を迫り我得意の秘漕數本今將に決勝戦に突入せんとする其の

名古屋商業と共にランチに繋がれスタートに着く。用意はよし。漕はひたひたさ我が舷をたたく。號砲一發天空高く轟けば二艇は突進したり。さ之れは如何に。敵は三シートを先んじたり。果して敵はスタートに於て勝たんと計ひたるか、我はミッドルよりラストに掛け優らむとする作戦なり。見よ！我が舵手のミッドルヘビーを絶叫するや。我等は日頃得意の急ピッチを以て敵を壓倒し早や二艇身を抜きたり。かくして決勝線に入るや敵を抜くこと正に二艇身半なり。

彦根中學 一コース 一着 三分二十五秒
名古屋商業 二コース 二着

かくして第二回戦は忘れもせぬ怨敵八幡商業なり。一同作戦に作戦を重ねたり。戦はむかな時機到る、吾等は悲壯の面持にてシートにつけり。號砲一發アールドは水面を打つ。あゝ戦は始まりぬ。敵はスタートに於て二シートを先じたり。吾はミッドル前よりピッチを高めて敵に接近したり。此の時吾が舵手は機

刹那一發の號砲天高く沖し我が事止まぬ。嗚呼如何にせん武運既に盡きたり。浪にもまれ風に曝され、あらゆる辛苦を嘗めしも哀れ一の谷の泡と消えぬ。想ふ敗者の過言なるも其の者行く所として敵なき稀世の大英雄ナポレオンも、武運盡きては如何せん。あはれ孤城落日湖上遙かの孤島に風寒き夕朝に消ゆる淡雪の命も待たで倒れたり。戦敗は唯是時の運まは言ひながら、無念遺憾の極にこそ。今は我等が運命を定むるは舊倍の練習を要するのみと、最早斯く決心の色を浮べ、恥を忍び、身に餘る優遇を受け先輩諸兄の御好意を謝し恨を呑みて歸産せり。

因に此大會成績左の如し。

第一回戦

八幡商業 一コース 一着
彦根中學 二コース 三着
大津商業 三コース 二着
コース紺屋關沖菊々濱間千百米
尚出漕者左の如し。

先を制してミズルへビー五本を掛れば吾等は俄に元氣付きて、ぐんぐん／＼抜きたり敵は正しく調子を亂したるやうなり。吾等は此の昇天の氣を以て堂々決勝線に入れり、敵は吾に遅くるゝこと五艇身なり。

八幡商業 一コース 二着

彦根中學 二コース 一着三分二十一秒
愈々吾等は優勝戦に於て京都一中を見ゆることゝなれり。諸先輩の色々の注意を受け艇上の人となれり。兩頭の鷲將に争はんとし東風と南風と颯と水面に吹き下せば、漣は或は西に、或は北に進む。斯くて吾等はその波立つ中を鮮かなるサリコートを終へてランチに引かれ行けり。

やがてスタートには一發の號砲と共に兩艇は突進したれど二百米に於て我早や半艇身を先立たれたり。然れどもあせる事なく悠々としてストロークもて之れを追ふ。ミズドルに到れば一艇身の差、これ以上離すべからず。かくてラストにさし掛るや我急にヒツチを以て

彼を追ふ。然るに如何。彼の力未だ衰へず。遂にラストへビー五本に移るや、無我夢中ゴールに達したるに、如何せん！ あゝ吾は敗れたり。

彦根中學 一コース 二着

京都一中 二コース 一着三分十五秒
斯くて今年も敗れたり、吾等の雪辱も此所に實を結びざりき、あゝ如何せん。我が先輩校友の御聲援を深く謝し、御寛恕を乞ふのみ因に出漕者左の如し。

舵手 深尾九一郎 整調 澤田 傳七
五番 西田 悱 四番 森野 壽
三番 加藤 默英 二番 北村 安彌
一番 淺利新五郎
マネーヅヤ 澤田 二郎

關西中等學校漕艇大會 出漕之記

七月六日一時雨を呼ぶボート日和なり。吾

五番 西田 悱 四番 森野 壽
三番 淺利新五郎 二番 北村 安彌
一番 加藤 默英
マネーヅヤ 澤田 二郎
尙成續左の如し。
京都一商 一コース
彦根中學 二コース
一着(優勝) 四分四十八秒五分ノ三

夏季練習之記

七月上旬飛報來る。曰く全國中等學校競漕大會は例年の如く、八月三日大津石場ヶ濱に於て舉行せらるると。

先に我部は各地に轉戦して一度名を成したるのみにて二度迄敗れ且つ淺利君病氣の爲クルーに大變動を來せり。此所に於て我部は元氣旺盛なる新人浦部君の入部と共に新クルーを編成し以て來るべき全國大會に必勝を期して練習せり。

然れ共此新クルー編成遲き爲時日の不足を

等が奮闘の日、扶搖萬里の風に馭すべき日はなりぬ。

齋戒沐浴して戦機のを待つ好敵京都一商たるや、此の晴れの舞台に登場し來り、此の第一回の名譽の桂冠を得んものと猛練習を積めりとかや聞く。吾等金鷲城下の赤鬼健兒意氣既に敵を呑み、奏樂裡に乗艇、蕭々として第二コースに向ふ。我等此の同にして勝たずんば今迄の苦辛憐愍何の効かある。死す迄ボールの折れる迄漕がんののみ。號砲一發二艇等しくスタートを切る。

右舷に吾等は京都一商を見る。初め京一商滑り甚だ好く、我に先する事正に半艇身、今や百五十米の頃に至る時舵手此所五本を叫ぶと共に、漕手日頃の賜の力漕數本、見る／＼敵を抜かんとせり。然るに俄然京一商艇首を我が艇に向けて進路を遮らんと圖れり。嗚呼！我等は此の奸計あるを神ならぬ身の知る由もなし。今や二艇接觸して無効ならんとす。吾等同志今日迄の炎天下の猛練習の苦辛

如何ともする能はず、焦燥の念禁すべからずよつて七月二十日先輩の配慮をわづらはして先輩の主催にかゝる練習競漕端艇大會に出漕し、名古屋商業、彦權會等を敗り大捷したり。よつて我等が意氣も大いに揚げたり。然れども尙時日の不足の不安を感じたれば部長理事の先生諸先輩との協議の結果夏中休暇早々合宿をなすことゝなれり。かくて七月二十四日より六日間我が寄宿舎に於て合宿す、こゝに於てプログラムを作りて終日技を練り体を養ひ、來る日の準備につとめ殆んど日西に沈み時の迫まるまで及ぶ限の練習を積みぬ。

遠漕の記

七月二十七日、議一決し、未明より遠漕の壯途に上りぬ。理事上木先生同乗の上、一途長濱を指して進む。此の日は曇りたれど絶好の遠漕日和なり。十分、二十分、四十分とロンクを續け、或は二本漕に漕法を確めつゝ、午前十時悉なく長濱につく。午後に至りて折

も一瞬にして水泡に歸せんとする時しもあれ沈着にして機を見るに敏なる舵手は突然ヤ々五本！を絶叫し難關を切り抜けんと圖れり漕手一同漕ぐは今ぞと死を賭して漕げば、艇足急に上り、見る／＼京一商を後にしつゝ、八百米のボールに入らんとする時、卑怯極まる京一商の計畫挫折するや、往年の意氣も何所へやら、何等の追求も試みず、我がラストへビーにより艇差益々増大し、五艇身の差を以てボールに入れり。時を費す事四分四十八秒五分三。嗚呼吾等が五旬に餘る苦難も今や報いられ、會長より優勝旗と賞品を受け、赤鬼健兒の聲も永久變らぬ堂島川の波聲と共に残らん。

終りに多數の他の學校が参加の由なりしも憂懼せしを恨む。

又御多忙中にも拘らず、毎日御聲援下されし先輩澤田氏に謹みて御禮申上ぐ。

因にメンバー左の如し。

舵手 深尾九一郎 整調 澤田 傳七

からの東風に波は白頭を立てしが、我が漕手の意氣未だ衰へず。約二時間程休みて一氣に我が彦根に歸れり。この時の漕手の努力、苦痛實に察するに餘りあり。波頗る激しく、風立ちて、日は赫々照りつけ所謂油照りにて、我等の最も苦痛とする天候なり。然れ共何物か我が選手の意氣に抗するを得ん。荒波と戦ひ、多景島の邊に來たれば波すてにや、静まりぬ。漕手は非常に疲勞したるも努力につぐに努力を以てし互にはげましつゝ、オールを握りしめたる様は實に涙ぐまじきばかりなり。一時過ぎ無事彦根につき、休息して尙夕暗迫まる頃まで練習して、合宿所にて疲勞を休めぬ。

かくて我等の自信は、いよ／＼堅く、戦の日は、日一日と迫まりぬ。七月二十九日合宿所を引拂ひて、其の日の夕方先輩諸氏に送られて我が檜舞台大津に向ふ事となれり。

石場ヶ濱出漕の記

第二十八回全國中等學校優勝競漕大會は京都帝國大學々友會船艇部主催の下に八月三日大津市石場ヶ濱(コース紺屋ヶ關沖—石場ヶ濱間千百米)に於て舉行せられ我等は之に參加せり。

八月三日早朝齋戒沐浴合宿所前の縣社天孫神社に參拜後午前八時會場にて行はれし入場式に參列せり。

かくて十回午前十一時半我等が起つ時は來れり。敵は共に近畿の剛の者。三艇は曳船に依りスタートにつきぬ。此時湖上小波を立て、又絶好のレース日和と云ふべし。突如號砲一發三艇等しくスタートを切れり。

京都一中 一コース 一着
彦根中學 二コース 三着
津中學 三コース 二着

スタートに於て敵艇共に滑り出しよく我後る、こゝ約半艇身悠々之を追ふ。二百米三百

米我徐々に二艇に迫り接戦す。五百米を過ぎミッドルヘビーを絶叫して京一中を抜かんとせしも彼もさる者急ビツチを以て進む津中學の艇速にぶると見るや八百米にて京一中は完全之を抜き一位を占む、吾又之を抜かんとし、此所に於て猛烈なる白熱戦行はれ彼我相呼應して力漕を續けたり。かくて千米一舉に勝を制すべしとラストヘビー物すこく突進せしが嗚呼！天なる哉、命なる哉！、日頃の實力を十分發揮し得ず最後の力漕も空しく一艇身の差にて三着となれり。

校友諸兄の期待を破りし吾等は愧首して御宥を乞ふのみ。

因に當日の出演者

舵手 深尾九一郎 整調 澤田 傳七
五番 西田 悞 四番 森野 壽
三番 加藤 默英 二番 浦部 善三
一番 北村 安彌
マネジャー 澤田 二郎

當日來津して應援をたまひし校長先生を始

八月三日

京都帝大主催(於石場ヶ濱)

頁 津中學 (一回戦)

頁 京都一中 (一回戦)

合計

大會出場 五回

競漕數 九回

優勝數 二回

敗 數 三回

コース

石 場 千百米(奉公園、京大主催全

國中等學校船艇大會)

彦根港灣 八百米(彦根高商主催近府縣)

堂島川 千米(大阪夕刊新聞主催近府

縣)

彦根港灣 千百米(彦根會主催近府縣)

野球部々報

木 下 記

部長 宮 原 先生
理事 平 井 清先生
選手(主將) 植田 義之
吉見 東三
近藤專太郎
木下平三郎
布施 一男
原 重信
高橋 嚴三
石 坪 先生
吉田 榮造
西野健次郎
上池賢次郎
松居 敬三
佐藤 正
西川 寛一

名古屋新聞主催

岐滋二縣中等學校選抜

野球大會の記

第一回戦本校對岐阜商業戦

十二月十五日各務原球場に於て正二時岐阜商

め諸先生、諸先輩、諸校友諸君に深く感謝す
部報を書き終りて最後に本年の成績を左に
掲げん。

五月二十五日

奉公園主催(於石場ヶ濱)

頁 八幡商業 (一回戦)

頁 大津商業 (一回戦)

六月二十二日

彦根高商主催(於彦根港灣)

勝 名古屋商業 (一回戦)

勝 八幡商業 (一回戦)

頁 京都一中 (優勝戦)

七月六日

夕刊大阪新聞社主催(於大阪堂島川)

勝 京都一商 (優勝戦)

七月二十日

彦根會主催(於彦根港灣)

勝 名古屋商業

勝 彦 權 會

勝 彦中ミックス

樂先攻にて試合は開始さる。

第一回(岐商)青木二失に生き加藤遊捕、棚瀬二捕なりしが篠田右前に安打し、青木生還次打者松原三振然れども岐阜最初の一點を先取す。(岐商一―本校〇)

(本校)吉田三振近藤二捕西野中捕に凡退す

第二回(岐商)北村四球に出でしが谷川投捕、塚原三振、久保田右捕に空し。(兩軍〇)

(本校)植田、松居共に二捕、上池右捕に振は

す。

第三回(岐商)青木左捕、加藤一捕、つゞく棚瀬も二捕に凡退す。

(本校)木下投捕、布施四球に出でしも吉見左捕、吉田捕捕に空し。(兩軍〇)

第四回(岐商)篠田遊捕、松原中前に安打せしも二壘にて刺さる。北村四球に出で谷川三遊間安打なりしも次打者塚原遊捕に空し。

(本校)近藤四球なりしが西野の二捕に封殺されダブルプレーを受く、つゞく植田三捕に振はす。(兩軍〇)

第十一回(岐商)加藤遊捕、棚瀬中捕、續く篠田一捕に空し。

(本校)植田遊捕、松居三振、上池遊捕一失に出で山村三振。(兩軍〇)

第十二回(岐商)松原四球、北村捕捕に殺さる谷川四球に出で安田三振後久保田二失に生き青木の三遊間を抜く、安打に松原、谷川相續いて生還、加藤二捕に終る。岐商此の間貴重な一點を上げ。(本校)那須三捕後吉見三壘を抜く安打に出しも吉田の投捕に二壘に封殺され近藤の投捕に空し。(岐商二、本校〇)

遂に十二回の延長戦！午後四時四十分閉戦

本 校
田 藤 野 田 居 池 下 村 施 須 見
吉 近 西 植 松 上 木 山 布 那 吉 須
中 遊 捕 投 三 左 二 一 右
40 3 3 7 7 0 1 0 4

數 點 打 振 球 打 壘 打 策
打 得 安 三 四 二 盜 繼 失
44 5 10 6 8 1 2 3 4
二 一 中 投 捕 右 三 左 遊
商 校 木 藤 瀨 田 原 村 川 原 田 田
岐 攻 (青 加 棚 篠 松 北 谷 塚 安 久)
岐 本 二 壘 打 青 木
試 合 時 間 二 時 間 四 十 分

第五回(岐商)久保田右前に安打し、青木の二捕に封殺さる。青木二盗を企て、刺さる。加藤、棚瀬共に四球に出で篠田中前に安打せしが加藤本壘に刺さる。棚瀬、篠田共に残壘。(本校)松居四死に出で上池の三捕に封殺され木下の遊捕に再び刺さる、木下も又牽制球に倒る。(兩軍〇)(那須布施に代る)

第六回(岐商)松原三振、北村三捕、谷川左捕に空し。

(本校)布施四球に出でしも吉見の捕捕にグッシューされ、吉田二失に生きしも近藤の三振に空し。(兩軍〇)

第七回(岐商)塚原に代り安田四球に出で、久保田の投捕に二進し、次打者青木左翼頭上を抜く二壘打に安田生還し加藤左捕後棚瀬右前安打に青木生還、棚瀬二盗成りしも篠田の左飛に空し。

(本校)西野遊捕一失に生き植田中捕松居の一捕飛球に西野刺され共に倒る(岐商二本校〇)第八回(岐商)松原三振の後北村、三遊間に安

第二回戦本校對大垣商業 十二月二十二日 二時四十分同球場に於て本校先攻で閉戦す。

第一回(本校)松居遊捕後吉田三壘越安打を放ち續く西野左捕、植田左翼頭上を抜く二壘打に吉田生還せしも上池の捕捕に空し、然れども本校一點を先取し、意氣昂る。

(大商)廣瀬四球に出で岩井遊捕二失に生き續く田口四球、吉村三失を得岩井生還せしも田口三壘に刺さる。

泓の右前安打に吉村生還し、下里の一捕に終る。(彦中一―大商二)

第二回(本校)近藤三遊間に安打し、木下投捕布施の中前安打に近藤生還し、吉見の左補を利して、布施再び生還し、松居四球なりしも吉田の二捕空し、然れども二點を加へ益々意氣昂る。

(大商)小寺四球に出で横關投捕、廣瀬三振、岩井二捕に凡退す。(本校二―大商〇)

第三回(本校)西野三捕、植田遊捕、上池三遊間に安打せしも二盗成功せず奮死す。

打し續く谷川小飛球を上げ二失に生きしも安田三振し、久保田投捕に空し。

(本校)上池四球に出で木下の二捕續く那須の三捕に封殺さる、吉見三振に終る。(兩軍〇)第九回(岐商)青木遊捕、加藤二失に生き、棚瀬中捕、次打者篠田三捕一失に生きしも松原の中捕に空し。

(本校)吉田遊失に生き近藤右捕、西野二失に生く、續く植田、三壘強襲安打に、吉田刺さる次打者松原遊捕二失に生き、二死満壘となる、續く上池、木下に代りし山村共に四球にて、西野、植田一壘生還、那須遊撃強襲安打に又松居生還吉見の三捕然れども本校此の間一壘三點を上げ同點となり、補回戦に入る。(本校三、岐商〇)

第十回(岐商)北村遊捕谷川中捕の後安田四球に出で久保田中前に安打せしも、青木の三捕に久保田二壘に封殺さる(安田篠田ト交代ス)(本校)吉田三振、近藤遊捕、西野捕捕に凡退す(兩軍〇)

(大商)田口四球、吉村右前、泓中前に共に安打し下里二捕にて、田口生還し、下里生く、續く、服部アツドボールに泓生還し、前に吉村は本壘に刺さる、小寺三捕、横關三捕一失に下里生還し、廣瀬の投捕に終る。但しこの間四點を挽回す。(本校〇―大商四)

第四回(本校)近藤三捕、木下二捕、續く布施一壘越安打に出でしも吉見の三振に凡退す。

(大商)岩井投捕後田口、左翼頭上を抜く三壘打を放ち吉村四球に出しも、泓の三振、下里の二捕に後援なし。(兩軍〇)

第五回(本校)松居安打に出しも吉田の一壘飛球にダブルプレーを受け西野の遊捕に振はず

(大商)服部四球、小寺抜前にバンドし刺さる服部三盗成らずこれ又三壘に奮殺さる、續く横關遊失、廣瀬三失に共に生き、岩井の投捕一失に二者生還田口の三捕に空し。(本校〇大商二)

第六回(本校)植田三遊間安打に出で上池右捕近藤中前に安打せしも、植田の三盗効を奏せ

す刺さる、木下投失に生き布施左衛門。

(大商)吉村二失に生き、泓の三捕に封殺さる。下里投捕、次打者服部四球に出て泓敵先を利して生還せしも小寺三振(本校)一(大商一)第七回(本校)吉見二捕、松居三失に出てしも吉田遊捕、西野中捕に空し。

(大商)横關左前に安打し、廣瀬投捕、岩井三捕、續く田口右中間を抜く安打に、横關生還し、吉村の右前安打つゞき、泓四球二死満塁なりしも、下里の投捕に凡退す。(本校)一(大商一)

第八回(本校)植田左衛門上池一捕續く、近藤中前に安打せしも木下の二捕に後援なし。

(大商)服部三振小寺三遊間安打に出て、横關三捕廣瀬二失に生きしも、岩井の左捕に凡退す。(兩軍〇)

第九回(本校)布施左衛門、吉見遊捕、續く松居四球に出てしも、吉田の左捕に空し。遂に十對三にて本校敗る。

午後四時廿五分閉戦。

(八中)川村、高瀬、辰巳共に四球に出てしも福原、太田共に三振し、藤井一捕にて各壘殘壘なり。(兩軍〇)

第三回(本校)吉田中前安打に出てしも、上池左衛門、布施三捕後木下右前安打に吉田生還せしも吉見の三捕に空し。(八中)白木中前安打に出てしも安村の二捕に封殺さる、續く三輪三振、川村右飛。(彦中一一八中〇)

第四回(本校)近藤遊捕一失に生き、松居三振西野遊捕、近藤二盜成り植田一失に生き吉田の中前安打に近藤生還、上池四球に出てしも布施三振。(八中)高瀬中飛辰巳一捕、續く福原三振に凡退。(本校一一八中〇)

第五回(本校)木下三失に生き、吉見四球、近藤左飛、續く松居四球、西野の右飛を利して木下生還植田二飛に終る。(八中)太田三捕、藤井遊飛、次打者白木左前安打し、安村右中間安打に出てしも三輪二捕に後援なし。(彦中一一八中〇)

第六回(本校)吉田左中間三壘打を放ちしも上

校(先) 居田野田池藤下施見

Table with 3 columns: 本(先), 大商, 本校. Rows include statistics for players like 松吉西植上近木布吉, 三捕投左遊二一右, etc.

十二月八日 第一回戦が行はる、答なりしも都合により中止され、岐阜市立運動場にて岐阜商業と練習試合を行ふ。

岐阜商業先攻二時五十分藤本氏審判にて開戦

Table with 3 columns: 本校, 商(先), 岐(先). Rows include statistics for players like 吉近西植松木上布吉, 中遊捕投三二左一右, etc.

池三振、布施の中前安打に吉田生還、續く木下四球に出て、吉見中前安打、近藤三振、松居の四球に布施生還、西野の左前安打に木下生還せしも、吉見本壘を突いて刺さる。

(八中)川村四球に出て高瀬の右中間安打に川村生還せしも辰巳一捕、福原三振、續く太田遊捕。(本校三一八中一)

第七回(本校)植田投捕、吉田遊飛續く上池四球に出てしも、二盜効を奏せず刺さる。

(八中)藤井遊捕、白木三振し、安村遊失に生きしも三輪の一捕に終りゲームセット、かくて十一對一のセコールドゲームを以て我が軍大勝す。時に五時五十分なり。

校(先) 藤居野田池施下見

Table with 3 columns: 本校, 八中, 藤白安三川高辰福太. Rows include statistics for players like 近松西植吉上布木吉, 遊三捕投中左一二右, etc.

日没ノ爲八回ニテ止ム。閉戦 四時四十分 試合時間 一時間五十分

縣下リーグ戦の記

第一回戦本校對八日市中學

昭和五年四月十三日、若葉萌ゆ彦中グラウンドに於て午後二時四十分長商審判にて彦中先攻開戦す。

第一回(彦中)近藤遊捕、松居四球に出て續く西野、植田共に相續いて四球に出づ、吉田三捕上池の四球に松居生還、布施三捕二失に生き西野生還、次打者木下、吉見共に四球にて植田、上池相續いて生還、布施敵先を利し生還し、近藤の投捕に止む。

(八中)藤井一捕、白木四球に出てしも安村三振三輪二捕。(本校五一八中〇)

第二回(本校)松居、西野共に三振、植田一捕に凡退す。

第二回戦 本校對虎姫中學

昭和五年四月廿日櫻花咲亂れる彦中校庭に於て八日市中學審判虎中先攻にて午後二時三十五分閉戦。

第一回(虎中)田部左翼越安打を放ち釋種二失に生き田部生還せしも西島三振、脇阪二捕續く久保田捕捕に終る。(本校)近藤四球、松居四球に出て植田投捕、西野の投捕一失に近藤生還し西野二盜成る、吉田左前安打に松居生還、上池の左中間安打に西野生還し布施の中前安打に吉田生還續く木下四球に出て吉見の左前安打に上池生還し次打者近藤一捕、松居三捕一失に生き布施、木下相續いて生還、植田の右中間安打に吉見、松居又相共に生還せしも西野四球、吉田の左飛に止む、この間一舉九點を上げ。(虎中一一本校九)

第二回(虎中)川崎右飛、松川三振、藤田三直に凡退す。(本校)上池四球に出てしも布施の二捕に封殺さる、木下四球に吉見中飛、近藤の右中間二壘打に布施、木下相續いて生還次

打者松居三矢に生き、植田の左中間を抜く二壘打に近藤、松居共に生還、西野の二壘にやむ。(虎中〇―本校四)

第三回(虎中)松田三振、田部捕備、釋種遊備一失に生きしも、西島の遊備に封殺さる。

(本校)吉田三壘、上池投備續く布施一壘(兩軍〇)

第四回(虎中)脇阪四球に出ても久保田の遊備にダブルプレーを受け川崎四球、松川三振

(本校)木下遊失に生き、吉見四球、續く近藤二壘、松居三矢に生き、木下生還、植田二壘、

西野二壘に空し。(虎中〇―本校二)

第五回(虎中)藤田二壘、松田二飛、田部三壘に終る。

十四A對一にて我軍に凱歌擧る。五回コールドゲーム。
時に四時五分なり。

(本校)松居三振、吉田中飛、續く西野捕備に空し。(兩軍〇)

第七回(長商)中川(傳)三振眞川二壘佐藤三振に凡退す(本校)植田中飛上池遊備、次打者

布施三振(兩軍〇)第八回(長商)熊谷三壘大野三振し中川(稔)右飛に止む(本校)木下中

飛、吉見二壘、近藤二失に生きしも松居中飛二壘、續く西島三振に空し。

(本校)奮戦の利あり。
再び五A對〇にて勝を制す。

本校

藤居田野田池施下見	0
近松吉西植上布木吉	0
遊三捕中投左一二右	0
25 5 9 7 6 3 3 1 0	0
數點打振球打打策	0
打得安三四盜二儘失	0
17 0 5 13 1 0 0 0 4	0
遊二一捕中左右投三	0
商政)野稔)村川島傳川藤谷	0
長先)大中川北西中眞佐熊	0
濱校	2
長本	0
二壘打	植田

本校

藤居田野田池施下見	14
近松植西吉上布木吉	1
遊三投中捕左一二右	1
24 14 7 0 7 4 8 0 5	0
數點打振球打打策	1
打得安三四盜儘失	0
17 1 1 4 2 1 0 0 2	0
左遊投捕三右二一中	9
中)部種島阪田崎川田田	1
虎先)田釋西脇久川松藤松	1
中)部種島阪田崎川田田	1
虎先)田釋西脇久川松藤松	1
二壘打	池田
試合時間	二十五分

第三回戦 本校對長濱商業

五月四日、快晴に恵まれ長濱商業先攻長濱商業球場に於て花々しく開戦す。

第一回(長濱)大野三振、中川(稔)二壘なりしも川村遊撃強襲安打に出で北川の一飛に空し(本校)近藤右飛、松居中前に安打し、續く吉

田二矢に生き、西野の左前安打に松居生還、植田二矢に生き吉田生還、次打者上池二飛、布施二矢に出ても木下中飛(長商〇―本校二)

第二回(長商)西島三振、中川(傳)三振、眞川左前安打に出ても佐藤の二壘に封殺さる。

(本校)吉見二壘強襲安打に生き、近藤の二壘

第四回戦 本校對八幡商業

五月十一日、空高く晴渡り野球日和なり。八幡商業先攻にて開戦。

第一回(八商)伊藤四球に出で三原投前ルバンドし刺さる、原遊備、若原遊備一失に生き米

澤の中前安打に伊藤生還せしも、寺本三飛(本校)近藤、松居共に三振の後吉田三矢に出

でも西野の遊備に封殺さる(八商一本校〇)第二回(八商)宮崎三壘強襲安打、松澤右前飛球

に出でしも、宮崎封殺され北野二壘、伊藤三壘一失に生き、三原左前安打に松澤生還、原四

球に出でも伊藤三盗に刺さる(本校)植田二飛、吉見三振續く木下遊備に退く(八商一本校〇)

第三回(八商)若原、米澤共に四球後寺本一失岩崎三矢に生き、若原本壘を突き刺さる、續

く松澤四球に米澤生還、北野一失に生きて三進せし宮崎、二進せし松澤相續いて生還せし

も伊藤の左飛にやむ。(本校)上池二壘強襲安打を放ち、布施三振せ

安打に封殺され、松居の中飛に近藤二進せしも刺さる。(兩軍〇)

第三回(長商)熊谷左中間に安打せしも二盗ならず刺さる、大野二飛、中川左中間安打に出

で中川の左前安打に二進し、北川中前飛球に出でも西島の三振に凡退す(本校)吉田二

矢に生き、二進を企てしも効を奏せず刺さる西野右飛、植田三遊間に安打せしも上池三振

(兩軍〇)第四回(長商)中川(傳)左飛、眞川左飛、續く

佐藤中飛に凡退(本校)布施三振、木下二壘の後吉見二矢に生き、近藤の右中間安打に二

進せしも松居二飛(兩軍〇)第五回(長商)熊谷、大野共に三振の後、中川

(稔)二飛に終る(本校)吉田三壘、西野二矢に生き、續く植田中堅越二壘打に西野生還、上

池一飛球、布施の左矢に植田生還し、木下右前に安打を放ち、吉見の左矢に布施生還せし

も近藤中飛(長商〇―本校三)第六回(長濱)川村、北川、西島三者三振

しも、近藤二矢に生き二進し、松居の右前安打に上池、近藤續いて生還、松居二進し、吉

田右前安打に松居生還せしも、西野遊備、植田三振(兩軍三)

第四回(八商)三原二飛、原四球に出で二進し若原の遊失を利し原一舉生還す、次打者米澤

遊備、寺本二壘に空し。(本校)吉見三振、木下中飛、上池一壘に無爲

(八商一本校〇)第五回(八商)宮崎二壘、松澤遊備の後北野四

球に出でも伊藤の三壘に封殺さる、(本校)布施三振、近藤一壘、松居三振凡退(兩軍〇)

第六回(八商)三原三壘、原四球に出で若原の三壘に刺され、米澤の三壘に若原封殺さる。

(本校)吉田遊備、西野三振、植田三遊間に安打を放ちしも吉見の中飛に空し。(兩軍〇)

第七回(八商)寺本遊備、宮崎四球に出でも松澤の三壘に刺され、北野左矢に生き、伊藤

四球、三原の遊失に、松澤、北野二者生還、原左前安打に伊藤生還、續く若原中矢に三原生

生還上池中飛に止む(享榮1本校2) 第四回
 享榮鍛冶左前安打に出て松原中飛後木全四球
 松浦四球に満塁となり天野の中堅安打に二者
 生還松浦本壘を突きす前に刺さる伊藤四球に
 出でしが天野の三盗成らず (本校)木下四球
 布施一壘を抜く安打を放ち近藤三振せしが松
 居の左前安打に木下生還、吉田投捕西野三匍
 (享榮2本校1) 第五回兩軍無爲(兩軍0)

第六回(享榮)松原遊捕失に生き木全左前安打
 して二盗に刺され、その間に松原生還、松浦
 投飛天野三振 (本校)松井四球吉田右前安打
 し松井三進西野の中飛機打となりて松居生還
 後者凡退(兩軍1) 第七回兩軍無爲(兩軍0)
 第八回兩軍無爲(兩軍0) 第九回(享榮)木全
 一壘を抜く安打に出て松浦四球、天野中飛伊
 藤三振、小林の左前安打に木全生還、松浦本
 壘を突きす前に憤死す。(享榮1)
 かくて本校は東海の雄々堂々ほこ交へ接
 戦亦接戦途に6A對5を以て撃破す。
 準優勝戦 本校對大谷中學

失策	0	1	0	0	2	1	1	0	5
殘壘	1	2	1	1	1	0	1	0	1
盜壘	1	0	0	0	0	2	0	1	1
三振	0	1	3	1	2	1	1	1	1
四球	0	4	0	0	0	2	1	1	1
安打	1	0	0	1	1	0	0	0	1
得點	0	0	0	0	0	1	0	0	0
打數	5	5	5	4	4	4	4	4	4

中 彦 田井野藤見下施池
 吉松植西近吉木布上
 捕三中投遊左二一右

失策	0	0	0	0	0	0	0	2
殘壘	1	0	3	1	0	0	2	1
盜壘	3	3	2	2	3	3	3	1
三振	0	1	0	1	1	2	1	1
四球	2	1	0	3	1	4	3	2
安打	3	1	2	2	2	0	1	0
得點	3	2	1	3	2	2	2	2
打數	6	6	7	7	7	6	6	6

大 中 藤田川柴津村 納原
 齊澤村青豐木辻加桑
 中二捕投三一左右遊

二壘打	57	18	13	19	8	23	11	2
村川								
豐津								
三壘打								
齊藤								
青柴								
辻								

大谷 3 0 5 0 1 0 7 2 0 18
 本校 0 0 0 0 0 0 1 0 0 1

連戦に勝を制し、晴の意氣と意氣と相搏つ
 準優勝の白熱戦の幕は高商球場に於て切つて
 落された大谷中學先攻。

岐滋大會之記

九月二十一日快晴、朝早くから押し寄せた
 る觀衆球場を埋めたり。午前十時球審、深見
 壘審、原、試合開始さる。彦中先攻一番打者
 松居右飛次打者吉田二匍西野右失に二進し植
 田の中前安打に生還最初の一壘を擧ぐ。近藤
 三失に生きしも布施の中飛に終る (八中)藤
 井四球に出て高瀬左前安打安村四球のとき三
 輪一失に生き藤井生還川村右失に生き高瀬歸
 り白本の安打に安村三輪共に歸る辰巳三振福
 原左前安打に出て太田右前安打に白本歸る藤
 井高瀬共に三振(彦中一八中五)
 第二回彦中吉見中前安打に生き、西川左飛木
 下遊捕、松居三失に生き、吉見松居美事なる
 グブルステイルし、吉田安打に出て吉見生還
 せしも吉田二盗ならず刺さる (八中)安村三
 輪三輪遊捕川村三振(彦中一八中〇) 第三回
 西野三匍植田三匍近藤三失に生きしも布施二

匍に空し (八中)白本三振辰巳二失に生き福
 原遊捕辰巳二盗ならず(彦中〇八中〇) 第四
 回吉見三振西川左前安打に出て木下二匍松居
 左中間三壘打に西川生還吉田遊捕に終る。
 (八中)太田四球に出て藤井高瀬共に三振安村
 遊捕(彦中一八中〇)第五回西野右飛植田近藤
 共に三振(八中)三輪二匍川村四球に出てしも
 白本左飛辰巳二飛(兩軍〇)第六回布施一壘横
 を抜く二壘打に出てしも吉見三振西川中前安
 打に出て木下三振松居の右中間二壘打に布施
 西川歸り吉田中前安打に歸る西野三匍(八中)
 福原三振太田二匍藤井四球高瀬三振(彦中三
 八中〇) 第七回植田中前安打に出て近藤中
 飛布施三飛吉見遊捕に終る (八中)安村三匍
 三輪右飛川村左前安打に出てしき白本左翼
 の右を抜く大本壘打を放ち川村共歸る辰巳三
 振(彦中〇八中二) 第八回西川安打と思はれ
 し程の球左翼よくこれをさらふ木下一壘頭越
 の安打に出て松居又もや左越三壘打を放ち木
 下歸る吉田三飛西野三失に生き松居歸り植田

左飛に終る (八中)辰巳三振太田左前安打に
 出て藤井又左前安打續く高瀬一二間を抜く安
 打に太田歸り捕手共に藤井生還安村三振三輪
 打者のとき捕手三壘暴投に高瀬歸る三輪左飛
 (彦中二、八中三)第九回(彦中)近藤三振布施
 中前安打に出てしも吉見三振西川三匍に終る
 (八中)川村三振白本三振辰巳二匍(兩軍〇)
 第十回(彦中)木下一飛松居四球に出て吉田の
 三壘打に松居歸り西野中失に吉田歸る、植田
 左前安打に出てしも近藤中飛布施の右飛に終
 る (八中)福原太田共に三振藤井の三振に終
 る(彦中二、八中〇)

岐滋大會第二回戦之記 午後二時愈々第二
 回戦は始まつた、敵は湖南勝所の強敵觀衆、
 れこそ見ものであると球場につめかけた。場
 所は彦中球場土手にまで多く黒くなつた、愈
 々始められた勝申先攻彦中植田投手を置いて
 元氣に拍手に送られてボツッポンについた。
 植田君も最後の試合と肩の續く限り一生懸命
 に投げられてゐた、勝申一番打者小嶋はボツ

クスに入った觀衆は愈々緊張した。植田投手
 の球をよく打つか否か?ものすごい球は小嶋
 打者を遊捕に終らしめた次打者竹原、これ又二
 匍三番打者乾は古き名選手なりを生じて打
 つた球は二失により生きしもこれ又なき強打
 者田中は二匍に終らしめた。かくして重要な
 る第一回をよく守り得點なしに終らしめたの
 である。(彦中)松居ワンストライクの後一飛
 に終りしも二番吉田は中前安打を放ち續く四
 部皆しくも投飛、植田觀衆は期待していた。
 されど惜しくも三振に終つた(兩軍〇)第二回
 (彦中)石川二匍岸田、田村共に三振愈々彦中元
 氣づく。(彦中)布施惜しくも球を見逃がして
 三振近藤投飛、吉見四球に出てしも西川三振
 に終る。第三回(彦中)桑村、石倉共に三振
 小嶋三飛に空し。(彦中)木下二匍松居三失に
 生き二盗、吉田三匍、西野三失に生き植田一
 失に松居生還最初の一壘を擧げ觀衆熱狂す。
 次打者布施美事なる在中間二壘打を放ち西野
 植田續いて生還、近藤右飛に布施又一壘に刺

さ 彦中三勝中○) 第四回膳中竹原三遊間安打に出でしも牽制球に刺さる乾遊備、田中前安打後石川打者のさき二壘に盗塁せしも三振に終る (彦中) 吉見三振、西川右飛木下三遊間安打に出で松居中前安打に出でしも吉田の三振に終る(兩軍○) 第五回田村一飛石倉四球、奥村二失に生き小島左前安打に奥田田村歸る、石原遊備、乾又遊備に終る (彦中) 西野遊飛植田遊備布施遊越安打に出でしも近藤中前安打ありしも布施二壘に封殺さる (膳二彦中○) 第六回田中三振、石川中飛奥田遊備(彦中) 吉見中飛西川左飛木下右前安打松居の中越二壘打に歸る、吉田遊失に生きしも西野の一飛に終る(膳所○彦中一) 第七回田村三振、石倉三振、奥村三削 (彦中) 植田中飛布施、近藤共に捕飛(兩軍○) 第八回(膳中) 一番小嶋中飛、竹原二飛、乾三振 (彦中) 吉見三削西川遊備木下二越テキサス松居の一削に終る(兩軍○) 第九回田中四球、石川中飛、奥田打者のさき三壘まで盗塁、奥田

三振、田村三振最後の攻撃空し (彦中) 吉田右越大三壘打を放ち西野中飛次植田ボックスに立つや美事なるスクリズプレーを行ひ勝敗の一點を挙げ彦中途に勝を得觀衆萬歳を叫ぶ 優勝戦 本校對八幡商業
あ、待ちに待った戦の日は遂に來た仰き見れば空に一點の片影すら止めず絶好の野球日和ナイーン一同決死の覺悟を以てあたりしが天我に利あらず、又もや敗北の憂目を見る、願はくば校友諸兄重なる敗北を許せ。左に當日の戦蹟をのべん。
戦は九月二十四日午後二時本校先攻で開始さる。第一回(本校) 松井四球を利し吉田の襷打に二進せしが後援續かず (八商) 伊藤投備北野四球に出でしが無爲に終る(兩軍○) 第二回(本校) 近藤捕邪飛布施中飛吉見三振に止む (八商) 若原四球原三振宮崎三削矢寺本右飛野手の本壘暴投に二者生還松澤三振に止む (本校) 八商二) 第三回(本校) 西川二削木下投備松井三振 (八商) 伊藤三削北野四球に出

たが米澤三振若原二削(兩軍○) 第四回(本校) 吉田三削西野遊備植田安打せしが近藤中飛に止む (八商) 原右飛宮崎二削失に生き寺本右飛失に生きたが中川投備(兩軍○) 第五回(本校) 布施遊飛吉見三削西川投備 (八商) 松澤投備伊藤左飛北野三削 (兩軍○)
第六回(本校) 木下右飛松井捕邪飛吉田三振 (八商) 米澤遊飛、若原一二壘間を抜き原の二削失を野手本壘に暴投して二者生還、宮崎寺元四球に出で中川左飛、松澤の右飛失に宮崎選り伊藤の凡打に止む(本校) 八商三) 第七回(本校) 西野遊備植田左前安打に出で近藤右飛布施、吉見共に四球に出で二死満塁となりしが西川三振 (八商) 北野三飛米澤中前安打若原中飛原の三削は米澤を封殺(兩軍○)
第八回(本校) 木下遊備失に出で松居遊備吉田捕邪飛西野遊備 (八商) 宮崎左前安打寺本三削して宮崎を封殺中川右前安打し松澤伊藤遊飛に止む(兩軍○) 第九回本校植田一飛近藤左飛布施二飛に止む。かくて遂に5A對0にて敗る。——(木下、近藤記)——

庭球部々報

部長 平井先生
理事 町田先生
委員 大照 敏
五年 藤田 富男
四年 堤 登 真雄
三年 北澤 重雄
二年 奥村 保次

選手 五年 藤田 富男
四年 堤 登 良雄
三年 北澤 重雄
二年 奥村 保次

樹木のくすんだ色は緑に變る頃金龜ヶ丘の新しい力に抱れて、靜かな初春の空氣を破つて起り來る熱血を感じ、ボールの音は響いた。誕生への門出だ。

五月十一日 長濱農學を迎へるの記

午前十一時本校校庭に於て長濱農學と練習試合をなす。
ダブルス
長 農 本校

(No1) 兒 玉 3	(No2) 大 村 6	(No3) 山 田 6	(No4) 大 村 6
(No1) 堤 6	(No2) 吉 村 6	(No3) 田 2	(No4) 奥 村 4
(No1) 藤 田	(No2) 川 村 1	(No3) 北 澤	(No4) 藤 田
(No1) 兒 玉 3	(No2) 大 村 6	(No3) 山 田 6	(No4) 大 村 6
(No1) 堤 6	(No2) 吉 村 6	(No3) 田 2	(No4) 奥 村 4
(No1) 藤 田	(No2) 川 村 1	(No3) 北 澤	(No4) 藤 田

No1はなほ練習の日淺く加ふるに初陣の爲老巧なる相手に名をなさしむ。No1は割合に簡單に勝つ。
シングル

全國中等學校庭球大會 出場の記

大阪毎日新聞社主催
ダブルス
一回戦は不戦
二回戦

豫想通り三——三の無勝負に終つた。
シングルに於ては奥村、北澤はこれが初陣。若冠奥村はよく相手に肉迫して心膽を寒からしめたが遂に敗れた。敗れたと雖も奥村の奮闘は賞讃に價する。君の自重を望む。
藤田も此日當り良くドライブをよく利用して勝つ。堤の健棒が鮮やかなネットプレーに敵を啞然たらしめた。
眞夏の太陽が彼方の湖畔西江州の山々へ落ちる迄汗とちりにまみれ愛校の血潮に燃ひて四月以來長濱寺大會の檜舞台を目指して、練習した。
若き戦士のあの銀鱗躍る濱寺のコートの上に活躍すべき時は來た。

(杉山) 商業 4 — 6 我(堤) 田

三回戦 (大阪桃山) 中(學) 2 — 6 我(同) 校

四回戦 (譜) 中(學) 6 — 2 我(同) 校

強者松本桃山を軍門に下した我等は天をも衝かん勢で勝所に當つた。悲しいかなあたら勝を敵勝所に譲らんとは……

一回戦 (師) 範(良) 1 — 0 我(堤) 校

堤物凄くグラウンドストロークに敵を苦しめたが敵も然るものよくこれを返し、加ふるに堤凡失多く惜しくも破る。我等彦中健兒の應戦奮闘もなすに由なく、右の戦蹟によつて敗れてしまつた。落ちるは唯悲憤の涙のみ……

八月四日

四高主催大毎後援全國中等學校庭球大會出場の記

濱寺し受けた生々しい傷ある身を以て遠い金澤の地に行つた。

一回戦 (磯) 中(學) 5 — 6 我(堤) 校

ダブルス (磯) 中(學) 6 — 3 我(藤) 校

ダブルス一組ダブルス二組の對抗試合である。ダブルスにはゲームはシソソして進んだが最後のポイントを我軍よくキープして遂に敵を破つた。而るに何といふ悲惨な事よシングルに敗れんとは、むざむざと長蛇を逸した。悲しいかな。御海容を乞ふ。

彦根高商主催

近府縣中等學校庭球大會出場の記

金澤で受けた恨みを彦根の地にてそゝがんと我等は勇躍一番して會場にのぞんだ。前夜の雨にたゞられて来る者少く十一日頃開始。

相手校棄權の爲一回戦二回戦不戦にて三回戦に進んだ。相手は京洛の雄京都三中、

三回戦 我(堤) 校 6 — 3 (京) 中(都)

四回戦 我(堤) 校 6 — 6 (今) 津(中) 學

京都三中、今津中學を破つた我はいよいよ準優勝戦にのぞんだ。折しも少雨さへ來り風は吹き甚しくコシテイション悪く、關西甲種

商業の爲に名をなさしめた。

關西甲種商業は優勝戦に平安中學を破つて優勝した。

漸瀝として蕭颯たる風吹く秋は來た。肌寒い風を身に覺れて、一球一打に全精神をこめて猛練習を續けた。三高に遠征への準備の爲に。

十一月十六日

三高主催全國中等學校庭球大會出場の記

大會の日は來た。木枯しは京の町々を吹いてゐた。

一回戦 我(堤) 校 6 — 1 (神) 二(中) 戸

二回戦 我(堤) 校 6 — 3 (京) 二(都) 中

三回戦 我(堤) 校 2 — 6 (關) 西(甲) 種(商) 業

何といふ運命の皮肉さか、再び京洛の地に

て關西甲種商業さまみねんとは、而も再び敗れたとは、嗚呼!! 無念恨み骨髓に徹した。併し如何にもする能はず。遂に本年度の大會の幕は永遠に下された。

十二月二十九日

彦根商業を迎へるの記

伊吹の山には雪が降り、陰雲空を掩ひ北風怒つて、樹間に吼の野に怒號するを聞く十一月二十九日彦根商業を我校コートに迎へて一戦を交へた。新陣の對抗だ。

本(校) 彦(商) (No2) 北(田) 村 6 — 4 (No2) 北(原) 村

(No1) 堤(田) 村 6 — 2 (No1) 草(原) 川

(No3) 北(澤) 5 — 6 (No3) 夏(原)

彦根高商主催

近府縣中等學校庭球大會出場の記

金澤で受けた恨みを彦根の地にてそゝがんと我等は勇躍一番して會場にのぞんだ。前夜の雨にたゞられて来る者少く十一日頃開始。

相手校棄權の爲一回戦二回戦不戦にて三回戦に進んだ。相手は京洛の雄京都三中、

三回戦 我(堤) 校 6 — 3 (京) 中(都)

四回戦 我(堤) 校 6 — 6 (今) 津(中) 學

京都三中、今津中學を破つた我はいよいよ準優勝戦にのぞんだ。折しも少雨さへ來り風は吹き甚しくコシテイション悪く、關西甲種

(No2) 田(村) 4 — 6 (No2) 原(北)

(No1) 堤(田) 6 — 2 (No1) 草(川)

ダブルスに於ては我軍の健棒の前には敵の涙ぐましい奮闘も如何にもし難く敵は我が前に倒れた。

シングルスではNo.2の北澤サーズにミス多くダブルスに於ける胸も出ず、6-5で惜敗した。

田村の健闘も敵のネバリ強キストロークに屢々ポイントを失ひ、又二セットやつた後の疲れの爲充分に腕を揮ふ事が出來ずこれも惜敗した。

堤此の日のコンテイション、絶好物凄しいショットになり、よく敵の虚を衝き敵を完全にシャットアウトした。

草川君は常程の腕が出なかつた。本年度校内大會優勝者 一、二年、中川、種村 三、四、五年 藤村、上池

回顧

今年の戦績は昨年に比べてはよかつた。併し満足な結果ではなかつた。選手はこれからの。のびる餘地が充分にある。前年出ずは唯一人。前途洋々たる熱血の若人がある。來年こそ期待すべきだ。庭球部諸君の自重奮勵を望む。

(藤田記)

陸上競技部々報

湖東聯盟陸上競技大會

出場の記

四月來以來猛練習に、猛練習をせし腕を以て六月一日、八日市中學大グラウンドにて開催せられし大會に参加せり。

フィールド

圓盤投 馬場元一

砲丸投 棄權

走中跳 近野金三郎 藤本

近野奮闘して五米四十四を跳べども順番を間違へ(設備不完全のため)抗議を申込みごも入れられず。故に眞のスポーツマンシップに順して清くあきらめり。得點無し。藤本足數合はず皆ボークす。

走高跳 近野金三郎 古川傳三郎

澤田平三郎

三人長く奮闘せしが古川先づ落ち、澤田、近野一米五十を跳び一米五十二にて澤田落ち、近野ベストをつくせしも四位(長商二人本校一人)となり、二點にてやむ。

三段跳 近野金三郎 古川傳三郎

近野足合はず涙のみて去る。古川ベストを盡せしも及ばざりき。

棒高飛 堤

堤の眞剣なる努力空しからず我が部の爲め貴

我等は當日小野先生引率の下に、今年こそは連年の恨を晴さんものと、意氣すさまじく八日市に向へり。午前八時半より選手入場式あり、参加校は七校に上る。式後直ちに競技は開始せられぬ。次に當日のメンバーをあぐ

トラック
百 米 馬場元一 平塚孝城

我等の最も頼とせし桂、病氣の爲め出場不可能となり、平塚をして之に代らしむ。馬場平塚スタート宜しきもラスト迄續かずに敗る

二百米 馬場元一

馬場、圓盤投と同時にたりし爲め棄權せり

四百米 宮内勇三 藤村正三

宮内ベストにベストを以てせしも如何にせん終に敗る

八百米

澤田平素の努力報いられ、見事豫選をパスし決勝に臨む。澤田決勝にて奮戦せしも千五百の直後のためラストにて遅れ第六位となる得點一點

千五百米 澤田平三郎

澤田八百米の後とて疲勞未だ癒はず、豫選にパスしたれど、決勝にて敗る。

一 萬米

中村ベストを盡して戦ひしが眞に少しの差にて七位となり得點無し。

八百米リレー

未だ練習不足の感あり、バドントッチ不十分にして漸次遅れたり、

出場者 トップ 馬場元一

二 番 宮内勇三

三 番 林 春夫

四 番 古川傳三郎

千六百米リレー

得點二點

出場者 トップ 藤村正三

二 番 古川傳三郎

三 番 宮内勇三

四 番 澤田平三郎

此の日の彦中軍のメンバー次の如し。

トラック

百 米 桂 敬信

桂スタート及びピッチの出方目醒しく断然一着となり、聯合軍の意氣を揚げた。

レコード 十二秒五分三

四百米 宮内勇三 戸下善郎

力走功無く敗れた。

千五百米 喜久川二造

喜久川奮闘し、最初には有望に見えたがラストで敗れ無得點。

一 萬米 宮内勇三

宮内の意氣すさまじく最後まで頑張つたが甲斐なく敗れた。

フィールド

圓盤投 古川傳三郎

古川ベストを盡したれども及ばず敗れた。

槍 投 馬場元一

馬場肩を痛めて實力を發揮し得ずに退いた。

砲丸投 馬場元一

彦根高商對聯合軍 (彦) (校) 陸上競技大會記

四月二十六日、彦根高商主催の下に今年始めて開催された本大會に出場した。

此の日北風強く甚しく寒氣を覺えたが我々選手一同は之を物ともせず、壯烈なる試合を演じた。

かくして總點は三十五對三十四で、聯合軍が勝ち高商軍惜敗し、五時四十分終了、後茶話會に招かれた。

馬場残念ながら棄権した。

走高跳 近野金三郎 古川傳三郎

近野、古川よく奮闘せしも僅かの差で得点に入らなかった。

走幅跳 近野金三郎

近野奮闘目醒しく第一位となり、我が部の意氣を増した。

レコード 五米四十五

三段跳 近野金三郎

近野此の時コンティンション悪く、足数が合はず敗れた。

棒高跳 澤田平三郎

澤田君豫定外の棒高跳に出て、貴重なる一點をあげた。此の一點によつて聯合軍の勝さなつたのである。

リレー

聯合軍の選手各々ベストを盡したが高商軍に敗れた。

競泳大會に出場し猛威を振はうとしたけれども試験の関係で棄権した。

第參回湖東大會出場

七月二十日 昨年度に於て好記録を得て榮冠を握つた吾部は本年度に於て湖東の覇權を維持せんものと出場したのでつた。

高商プールにて舉行。

二〇〇米リレー 本校一着 タイム二分七

秒六 新記録

メンバー 林、松田、坂野、山本 七點

本記録は縣下記録 二分八秒二を破つた好記録である。

一〇〇米フリースタイル

一着 坂野 一分十二秒八新記録 五點

二〇〇米(同)

二着 松田 三着 林正二 五點

四〇〇米自由型 藤本、井口出場、調子拙はず得点なし。

千五百米自由型

八高主催全國中等學校競技大會遠征の記

十一月十六日馬場、近野、古川、澤田の四選手は八高主催の全國中等學校陸上競技大會に出場し、よく各自のベストを盡して戦ひしも全敗の憂目を見たる事を深く校友諸君に謝し併せて之れを境として一層の練習をなし來年度に於ては諸君の意に叶ふ様最善を盡す所存であります。

當日は朝來の暗雲去らず會を追ふに益々雨降り續き嘗て無い程悪コンティンションであつた。因に當日の戦跡は次の如し。

百米第一豫選 馬場前半五十米までよく力走し二三着位なりしが練習不足の爲ラストきかず四着にて落選。

二百米低障害 古川百米頃までよく力走せしがコーナーにかゝつて歩調合はず落選す
一五百米 澤田好調にて悠々第一着を以て四周目位までトップを切り入選するかと思

森 彦商の廣野を向にまはして白熱のレースを演じたるも二着(二六分二三秒二)

一着との差九秒 三點

一〇〇米バックストローク

山本 一着(一分二五秒二)新記録 五點

郡田 四着 一點

二〇〇米プレストストローク

喜久川 一着(三分十六秒八)新記録五點

八〇〇米リレー 吾がチームは遂に二着とな

る。

かくして僅か四點の差を以て彦商軍に勝利を譲らねばならなかつた。惜敗に泣かればならなかつた。

覇業ならず終つた。一同悲憤の涙のみ流れ出づるのだつた。當日御來援下さつた諸兄に深く謝意を表します。

翌日より又激しい練習に寸暇を惜んだのだつた。

勵まし合つては元氣を出し技術の向上に精進するのだつた。そして縣下大會を待つた。

はれしが、後半漸くれ亂遂に第三着にて落選す、されど澤田の奮闘は實に涙ぐましい程であつた。

水泳部々報

春光漸く暖かに!! 水漸くぬるむ頃から、實力に於ては自他共に許す水の子は縣下大會を始め各大會に對して備へねばならなかつた練習するに何一つの設備すらない湖邊で唯優勝へと努力するのであつた。

全校の名譽を双肩に擔つて起つた吾等が選手の意氣!! 先輩の殘された事業を成就しようと思壯なる決心を以て昨年よく御盡力になつた横田氏を再びコーチャーとして練習したのでつた。

七月六日 栗太農學校主催近府縣中等學校

縣下中等學校競泳大會

七月二十六日 於栗農プール 天に冲する意氣を鍛へた鐵腕を以て!!

△記 録▽

二〇〇米リレー豫選 B組

一着(二分七秒)

メンバー 山本、松田、林、坂野

決勝 三着 一、二、三着は同着となつたが

審判員合議の結果三着となる。(四點)

一〇〇米自由型 豫選

坂野 三着 室谷 落選

準決勝 坂野 二着(一分十一秒)フラット

決勝 坂野 一着(一分十一秒四)(六點)

二〇〇自由型 林、松田出場

豫選 林 二着(二分五十九秒六)

松田 四着(三分一秒四)ベスト

フォーースで入選したが準決勝で棄権した

準決勝 林、よく奮闘せしも振はず落選。

四〇〇米自由型 井口、宮川出場

豫選 井口 三着(六分四六秒二)

宮川 初陣のため落選

準決勝 井口 四着(六分四一秒四) 奮戦

よく努めたれども惜しくも落選

千五百米自由型 森 スタートよく優勢な

りしも腹痛のため二百米にて棄権

一〇〇米背泳 山本出場

豫選 山本 二着(一分三〇秒)

準決勝 二着(一分二四秒六)

決勝 山本よくベストを盡したるも三着

となる。(四點)

二〇〇米平泳 喜久川 藤本善雄

豫選 喜久川 一着(三分二十一秒四)

藤本 三着(三分三十九秒六)

準決勝 喜久川 二着 藤本 四着(三分

三〇秒六)

決勝 喜久川 二着(三分一八秒四)五點

八〇〇米リレー(決勝) メンバー、山本

松田、林、坂野、皆疲労甚しく充分實力

を發揮し得ず。僅か一點を得て退く。

森 (自由型)四〇〇米八〇〇米千五百

米

井口(背泳)一〇〇米

渡邊、藤本孫信(共ニ平泳)

杉江、杉本(共に八〇〇米千五百米)

飛泳を蹴つて、明年度の活躍に備へんが爲

めに九月末まで練習を続けたのである。

寒さにふるへながらもプールの水に親しむ

のだった。

x x x

黄金時代建設を期してゐたのに!! 實現せ

ずして結局夢の様になつてしまつた。

昨年度の活躍に比して本年は物足りない感

じがする。

栗農をして「彦中恐るべし」の感を抱かし

め、優勝候補の一として自他共に許した吾が

部の活躍としては縣下大會にて二〇點第三位

には満足出来ない。

優勝しよう。覇権を掌握しよう!と決心した

吾等の期待とは餘りに差がありすぎる。

大會は終つた。再び敗者として、吾等の努
力は報いられなかつた。されど見よ!!彦商軍
は十一點を得て吾等の足下に從つてゐるでは
ないか。

吾等の實力は彦商軍に優つてゐることを物

語つてゐるではないか。

順位第三位 得點二十點

京滋對抗中等學校競泳大會に、山本(背泳)

喜久川(平泳)坂野(自由型)の三名出場権を

得。

明大主催の全關西大會及び西部中等學校競

泳大會は都合に依り不出場となる。

彦根高商主催近府縣中

等校水上競技大會

人皆旅行登山に楽しむ夏休みに、炎熱膚を

焼く日に!!水を唯一の友として練へ上げた身

体と技能を以て、シーズン掉尾の華を飾らう

と出場したのであつた。

併し高商側の手落ちも準備不十分に患ひさ

我部はこゝに再び黄金時代の樹立を計つて

ゐるものである。背泳界の雄として各大會に

華々しき跡を示した山本選手と、平泳に於て

その名を謳はれた喜久川君は來春三月本校を

去られようとしてゐる。

兩君を送り出すことは吾が部としても大な

る痛手ではある。されど喜久川君の後繼とし

ては藤本(善雄)が控へて寸分のゆるみも見せ

ない。又山本選手の後任として十分其任を全

うする井口が居る。藤本、井口兩君に依つて

缺は完全に補はれるのである。

山本、喜久川の兩君の卒業に依る缺も今は

既に補はれた。完成せんとする吾が新チーム

の來年度に於ける活躍を期待せられよ。

許せ! 吾等の成績を!!

本年度の出場回数僅かに三回、全關西大會

は出場せんと欲せしも許されず。西部中等學

校競泳大會にも同じく栗太主催の近府縣大會

には試験の都合で出場不能となりしかも出場

した各大會は三戦して三敗の憂目を見る等實

れ見等既に承知の如く十一點しか得點し得な
かつたことはかへすくも残念である。當日
吾チームは二〇〇米リレーにて二分五秒二ミ
言ふ吾が部の最高記録を出す。

この二〇〇米リレー決勝に於て吾らの高商

審判側に對する不満は遂に破裂したのであつ

た。

即ち同決勝にて林スタートに立たざるに他

を出せしめたのである。而して吾らの抗議

は不當なりとしてレースは終へられたのであ

る。このレース以後の決勝は總べて棄権した

のだった。萬事は終つてしまつた。直ちに新

チームを組織し練習した。

新チームメンバー

坂野(自由型)一〇〇米二〇〇米

藤本(平泳)二〇〇米

林 (自由型)二〇〇米

松田(自由型)一〇〇米

宮川(自由型)二〇〇米四〇〇米

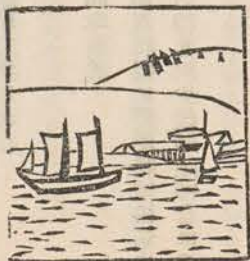
室谷(自由型)一〇〇米

に残念である。

しかれども三戦三敗の後を受けた新チーム

の活躍がある我らは來年の活躍を期待して僅

かに心を慰めてゐる。





雜 錄

本校日誌抄

〇一 月

- 一日 水曜 新年拜賀式
- 八日 水曜 始業式。寺川先生就任式
- 十日 金曜 寒稽古開始
- 二十日 月曜 寒稽古終了。武道部虎姫中學校武道大會に選手派遣
- 二十一日 火曜 第五學年生徒一同記念撮影
- 二十四日 金曜 全校荒神山に行軍兎狩
- 二十九日 水曜 本日より四日間考査

〇二 月

- 十一日 火曜 紀元節拜賀式
- 十八日 火曜 本日より一週間第五學年考査
- 二十四日 月曜 第五學年生徒校旗に告別の分列式、同卒業豫餞送別會
- 二十八日 金曜 本日より五日間第四學年考査

〇三 月

- 七日 金曜 本校第四十二回卒業式
- 十日 月曜 陸軍記念日、第五時限に配屬將校松尾少佐の講話あり、引續き同少佐歸隊拜命につき告別式
- 十二日 水曜 本日より五日間第三學年以下考査
- 二十六日 水曜 入學考査開始
- 二十九日 土曜 入學許可者發表

〇四 月

- 八日 火曜 始業式。配屬將校狩野少佐就任式
- 各組級長及校友會委員選舉
- 午後一時入學式
- 九日 水曜 新舊生徒對面式

〇六 月

- 十七日 木曜 第一時限淺井校長告別式。第五時限職員生徒一同驛迄見送る
- 十九日 土曜 第二時限、足立校長就任式
- 二十六日 第四時限 招魂社參拜
- 二十八日 月曜 第六時限 藤田校醫の結核豫防に關する講話あり

〇五 月

- 二十九日 火曜 天長節拜賀式
- 一日 木曜 本校創立記念日式。雨天に付き端艇大會延期
- 二日 金曜 端艇競争大會
- 十一日 日曜 午後二時より對八商野球試合
- 十二日 月曜 身体檢査開始
- 十四日 水曜 本縣榊山視學官來校視察
- 十九日 月曜 今野先生就任式。課外授業開始
- 二十一日 水曜 放課後講堂に於て教育映畫映寫
- 二十三日 金曜 午後一時より五年生父兄會
- 二十五日 日曜 端艇部、大津師範學校端艇大會に参加、野球部、彦根高商主催近府縣中等學校野球大會に参加

〇七 月

- 七日 土曜 修學旅行隊五年生は午後七時、四年生は午後八時歸校
- 十一日 火曜 朝禮時に時の記念日に關する學校長の訓話
- 〇七 月
- 二日 水曜 午後一時より第四學校生徒父兄會
- 八日 火曜 本日より四日間考査
- 十四日 月曜 水泳練習開始
- 十七日 木曜 白田先生就任式
- 二十四日 木曜 閱團分列式。終業式

〇九 月

- 一日 月曜 始業式

十三日 土曜 本校講堂に於て町内中等學校教育懇談會
 十五日 月曜 本日來校の關谷社會教育局長第五時限に生徒に對し訓示あり
 十八日 木曜 第一學年生徒父兄會
 二十日 土曜 敦賀聯隊に於ける學生射擊大會に五年生選手出席
 二十二日 月曜 午後一時招魂社參拜
 二十四日 木曜 講堂に於て同窓會總會。校庭に於て岐滋野球大會
 二十六日 金曜 第五、四學年生徒向三日間兵營生活見學の爲め敦賀に向ふ。
 二十七日 土曜 午後四時廿八分驛に東久邇宮殿下を奉迎す
 二十八日 日曜 彦根工業學校に於ける縣下中等學校武道大會に選手出場
 ○十 月
 十二日 日曜 陸上大運動會
 十八日 土曜 今明兩日縣主催英語科研究會。始業前に同會に招聘の岡倉先生と生徒一同に訓話あり
 二十六日 日曜 彦根高等商業學校の武道並庭球大會に選手出場
 二十七日 月曜 野村文部政務次官來校視察 第三時限講堂に於て生徒一同に訓示あり
 二十八日 火曜 本日より四日間臨時考査
 三十日 木曜 教育勅語御下賜四十週年記念式
 ○十一月
 三日 月曜 明治節拜賀式、式後全校長距離競走
 六日 木曜 第四、五學年生徒今明兩日に亘り行はるゝ縣下中等學校聯合演習に参加の爲八日市方面に行軍す
 十三日 木曜 行幸啓記念式 式後御召列車奉迎送に出發 午前十一時より校内武道大會
 十六日 日曜 競技部は八高へ、庭球部は三高へ選手出場
 ○十二月
 十一日 金曜 本縣高尾視學官來校視察
 十三日 土曜 第三四五學年考査
 十六日 火曜 教練查閱
 十七日 水曜 本日より四日間考査
 二十四日 水曜 閱圖分列、終業式

校友會各部役員 (昭和五年度)

☒學藝部 部長 村野先生

理事 居井先生
 委員 (五年) 山口 治平 久馬 幸衛
 (四年) 藤村 三郎 増田 稔
 (三年) 北川宗四郎 久木八惣八

☒武道部 部長 笠井先生

理事 村山先生 内田先生
 委員 (五年) 竹林紀夫 藤村正三
 (四年) 近藤國藏 上田啓三
 (三年) 夏川文二郎 小村 弘
 郡田浩次 島津富夫

☒雜誌部 部長 笠井先生

理事 藤下先生 寺川先生
 委員 (五年) 西村敏雄 杉橋義郎
 目加田榮藏 伊藤惠造
 (四年) 吉原 茂 箕 登
 近藤謙二郎 松宮 實
 (三年) 竹内 一 田中整次
 西田亮三 上松信一

☒端艇部 部長 佐藤先生

理事 上木先生 薄木先生
 委員 (五年) 森野 壽 西田 悞
 澤田傳七
 (四年) 北村安彌 浦部善三
 三輪隆造
 (三年) 大橋規矩雄 大西三良

☒圖書部 部長 松田先生

理事 竹下先生 及川先生
 委員 (五年) 高橋健一 林 弘 英

會計報告

昭和五年度校友會費收入豫算書

費目	豫算額	事由
前年度繰越高	一四四三〇	
職員酬金	二九〇〇	月六、六、十一ヶ月分(四月收入ニヨル)
生徒酬金	四四三〇〇〇	生徒平均五百九十名(四月實收ニヨル)
入會費	六六〇〇〇	四月實收ニヨル
金利息	六三〇〇〇	四月實收ニヨル
計	六五五、一〇〇	

昭和五年度校友會費支出豫算書

費目	豫算額	事由
短艇新造費	六五七〇	
短艇庫新築費	六〇〇〇〇	
運動場修繕費	一五〇〇〇	
學藝費	五〇〇〇〇	
圖書費	三三〇〇〇	
雜誌費	三三〇〇〇	
雜費	三三〇〇〇	
武藝部	四〇〇〇〇	
端球部	八〇〇〇〇	
野球部	八〇〇〇〇	
庭球部	四〇〇〇〇	
計	四〇〇、〇〇〇	

野球部

部長 宮原先生
理事 平井(清)先生 石坪先生
委員(五年) 吉田榮造 植田義之
吉見東三

(四年) 近藤專太郎 木下健三郎

(三年) 西野健次郎 松井敬三

庭球部

部長 平井(乙)先生
理事 町田先生

委員(五年) 藤田富男 大照敏

(四年) 堤登良雄 田村孝男

(三年) 北澤重雄 加藤伊太郎

競技部

部長 寺本先生
理事 小野先生
委員(五年) 桂敬信 近野金次郎
馬場元一

(四年) 古川傳三郎 澤田平三郎

(三年) 柴田禮二 三橋文男

水泳部

部長 白井先生
理事 杉原先生

費目	豫算額	決算額	増減
競技部	三〇〇〇〇〇	一五三、〇一〇	一四六、九九〇
水上運動大會	一、〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	〇
陸上運動大會	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	〇
衛生器具費	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	〇
道具費	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	〇
遠足費	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	〇
賞品費	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	〇
卒業式費	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	〇
園藝費	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	〇
雜備費	三九、五九〇	三九、五九〇	〇
計	六五五、一〇〇	六四七、四四〇	七、六六〇

昭和四年度校友會費收入決算書

費目	豫算額	決算額	増減
前年度繰越高	一五、六〇〇	一五、六〇〇	〇
職員酬金	一七、九三〇	一七、九三〇	〇
生徒酬金	四四、六〇〇	四四、六〇〇	〇
入會費	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	〇
金利息	五、〇〇〇	五、〇〇〇	〇
計	六四九、九〇〇	六四七、四四〇	二、四六〇

昭和四年度校友會費支出決算書

費目	豫算額	決算額	差額
端艇新造費	五、五七〇	五、五七〇	〇
計	五、五七〇	五、五七〇	〇

費目	豫算額	事由
右本年度積立	一〇〇、〇〇〇	
運動增修費	二六、七〇〇	
學藝費	五〇、〇〇〇	
圖書費	三三〇、〇〇〇	
雜誌費	三三〇、〇〇〇	
雜費	三三〇、〇〇〇	
武藝部	四〇〇、〇〇〇	
端球部	八〇〇、〇〇〇	
野球部	八〇〇、〇〇〇	
庭球部	四〇〇、〇〇〇	
水泳部	一、〇〇〇、〇〇〇	
陸上運動	七〇、〇〇〇	
衛生器具	一〇〇、〇〇〇	
道具	五〇、〇〇〇	
遠足	一〇〇、〇〇〇	
賞品	一〇〇、〇〇〇	
卒業式	一〇〇、〇〇〇	
園藝	三〇〇、〇〇〇	
雜備	三九、五九〇	
奉還式	六四九、九〇〇	
計	五、五七〇	



編輯後記

杉橋義郎

滅法冷い。昨夜中荒れ狂った吹雪の名残が、カチ／＼に凍てついた窓枠を透してこの部屋の中まで這ひ込んで来るように感じる。

放課後のうそ寒い校舎の一室。

整理を終へてホット一息つくくと、大火鉢に懸けられた古風な茶釜から一筋の白い湯気が立上つて来て、火照つた頬を快く掠める。

× × 校正され、選擇され、整頓された原稿の束。

丹念に校正された赤インクの跡。みんな會誌四十號の血となり肉となる 諸君の若々しさと純真さの結晶だ。

× × 校友會誌第四十號の編輯を無事に済ませたのを喜び、併せて雜誌部諸先生の一方ならぬお骨折を茲に深謝致します。

× × 編輯を終るに當つて、心附いた事を二つ三つ――。

原稿を一渡り見て先づ第一に感じたのは、相變らず投稿者が一部の人々に限られてゐること、低學年の人達の投稿の少い事です。生意氣な云ひ方ですが、原稿は今少しレファインされたものが頂きたい。殊に高學年の人達のものにこの感を深くします。

要するに應募原稿はその量に於ても、質に於ても尙充分とは云へません。まだ／＼向上の餘地があるように思ひます。

本號に校長先生の巻頭言の外、白田、平井兩先生の玉稿を頂く事が出来たのを諸君と共に喜び、且つ諸先生に厚く御禮を申し上げます。

× × 通信記事としては、わづかに彦根高商の組田君からの御寄稿があつたばかり。これはあまりに淋しい。今年、そしてこれから先、卒業して行かれる諸君に、學校を離れてからもたとへ原稿紙一枚でも結構です。寸暇をさいて御寄稿下さるやう今から御願ひして置きます。

× × 愈々、もう一月餘りで諸君とお別れしなければならぬ。

五年間。楽しかつた事も、苦しかつた事も、この五年間の中學生活で経験した事柄、それが人生と云ふ長いプロセスから見て、たとへどんなに些細な、とるに足らない事柄であつたにしても、すべて我々の心にしつかり掴まへられた思ひ出なのだ。

今こゝを巢立つて行くに當つて、自分は母校のあらゆるものゝ上に限らない愛着を覺える。控室の大きな爐に、薄暗い階段教室のほのかな硫化水素の臭ひに、そして日夜我々の伸びゆく姿を見つめてゐて呉れた校庭の銀杏の木に――。

友よ。巢立ちだ。旅立ちだ。

× 立たう、元氣よく。

× 母校よ。五年間我々を育てて呉れた思ひ出の學び舎よ。ではお別れだ。健在なれ。

最後に、この會誌の盡きざる發展を祈ると共に、四年生以下諸君が、更生せる我彦中をして名實共に滋賀縣一中たらしむべく勉められん事を期待して筆を擱く。

投稿の注意

- 投稿者は所定の原稿用紙を用ひられたい。
- 原稿には年級姓名を明記し、各種類に依り別紙に認め、雅號匿名は許さない。
- 點、丸、括弧は一字算入する。
- 他人の名譽を毀損し、論の政治的時事に涉るものは採用しない。
- 投稿締切期日は必ず嚴守すること。
- 原稿の採否は凡て雜誌部々長及理事の鑑識の範圍とする。
- 原稿の返戻は一切應じない。

明治二十七年五月三十日内務省認可
昭和六年二月廿八日印刷
昭和六年三月八日發行

【非賣品】

發行所	滋賀縣立 彦根中學校	校	友	會
代表者	滋賀縣立彦根中學校内 笠井			
印刷者	滋賀縣彦根五番町六十二番地 村下	斯		康
印刷所	滋賀縣彦根五番町六十二番地 村下	印刷		所

